

子安觀音

泰産寺と號す光明皇后の草創なり

六波羅密寺

眞言宗、松原通大和大路東に在り本尊十一面觀音は

空也上人の作にして西園十七番の札所又洛陽巡りの一なり本堂の

北に遊女阿古屋の塚あり

六道珍皇寺

建仁寺の南松原通に在り本尊藥師佛は傳教大師の作

にて開基は慶俊僧都中興は弘法大師なり蓮堂には小野篁の像を安

す焔魔堂は東方に在り迎鐘は毎年八月九日十日參詣の人此鐘を撞

て聖靈を迎へしむるとして洛中の子女群參せり當寺は桓武帝始めて

平安城に移り玉ふ時諸人の墓所とせられたる地なりと

宮川町

遊廓なり鴨河の東岸に沿ひ四條の南一丁目より五條まで

の地をいふ嘉永四年七條新地の出店を許され先斗町と同時に遊廓

となれり近時頗ぶる好況にて漸次妓樓の増加を見る

惠美須神社

建仁寺門前にあり祭神は蛭子命にして祭西國師が勸

請せし所なり近傍の産神にて例年は五月十六日なり

建仁寺

臨濟宗五山の一なり大和大路四條南に在り開祖は榮西千

光國師なり建仁二年源頼家當寺草創の爲め此地を寄附し同三年土

御門帝勅して當寺を造營せしめ玉ふ號して建仁寺といふは建仁年

中に建立したるを以てなり佛殿は天文年中回祿の時安國寺惠瓊が

東福寺の茶堂を移したるものなり本尊釋迦佛を安す方丈も又安國

寺より移せしものなりと方丈の庭に經藏あり其所藏の一代經は開

山國師が唐土より將來する所にして鮮明無比と稱せり開山の塔所

を興禪護國院といふ佛殿の西南に在り華藏世界の額は韓客雪峰の

筆にして殿内に千光國師の像を安す佛殿の東に二の鐘樓あり其大

鐘は往昔河原左大臣が六條河原の別莊を佛閣となし河原院と號せ

しも後ち荒廢して此鐘土中に埋れしを開山國師が當寺に移したるなりと又方丈の北庭に安國寺塔あり僧惠瓊の首を葬れり惠瓊は安國寺主にして豊太閤の時政務に參して頗る勢威ありしが關ヶ原の役石田三成に黨して徳川氏の爲に戮せられたるは能く世の知る所なり當寺の南門を矢立門といふ軍箭の迹あるを以て之を稱す或は此門は門脇宰相教盛館の門を移したりといふものあり南門の西に禪居庵あり開基を清拙和尚といふ唐僧なり本尊摩利支天は和尚が唐土より持來の靈像にて面貌白色衣服彩色なり金色七頭の猪に乗ず靈驗赫著なりとて香煙常に絶ゆるとなし

安井神社

祇園の南に在り大職冠鎌足此地を愛し自ら紫色の藤を栽ゑ家門の永久を祈りしに漸次繁茂して花の寺と號するに至れり崇徳帝之を愛し玉ひ屐は行幸あり又宮殿を築て阿波内侍を居らし

め玉ふ帝讚岐に遷幸の後御相好を鏡に寫し其を摸して自ら束帶の

尊影并に隨身二人の像を畫き玉ひて内侍に贈り玉へり帝讚岐に於

て崩御の後内侍は落飾す龜山帝の御宇眞言の僧大圓奏請して此地

に佛閣寺院を修造し玉ひ光明院と號し尊靈を鎮め歷代天子御造營

あり大圓法師住職して觀勝寺と號せり維新以後神佛分離の際安井

神社と改めたり今尙ほ帝が遺愛の藤の殘柱を存す

八阪塔

法觀寺又は八阪寺といふ聖徳太子の建立なり往古は殿堂巍々たりしが今は只五重の塔を存するのみ

庚申堂

日本三庚申の一にして八阪塔の東南に在り招魂社 靈山の半腹に在り維新前後王事に死せしもの、靈を祭れ

り木戸孝允の墓も亦同所に在り

靈山正法寺

時宗、靈鷲山正法寺と號す俗に之を國阿山といふ國

阿上人の中興なるが故なり當寺は天台宗にして山門の別院なりしが國阿上人くわあにん之時宗に改めたり堂の本主は國阿上人自作の像にて最初の本尊釋迦佛は西堂に安置せり國阿堂の額は弘法大師筆なりと阿彌陀堂の本尊は板齒見いたはみはるゝ故に俗に之を齒佛しごふと稱せり又國阿上人の塔は東北一丁許に在り

高臺寺 臨濟宗、双林寺の南に在り此地は古へ雲居方丈なりしが應仁の兵燹へいせんに焼失したる後ち慶長年中豊太閤の夫人北政所きたのまんどころの造營せられし所なり是より先き北政所亡母追福つひよくの爲め虛徳寺といふ一寺を建立せり當寺は即ち虛徳寺を改め移したるなり開基は弓箴きゆうしん和尚といひ曹洞派なりしが中興三江和尚の時濟家に改めたり寺域一萬七千四百餘坪流石りゅうせきに豊臣氏の經營なるを以て莊麗を極めたりしに惜む可し先年回祿の爲め佛殿以下悉く焼失し今は開山堂及豊臣

氏の廟舎を存せるのみ開山堂は南北五間東西四間半開山の像を正面に安す掲かたる所の法雲の額は雪月堂の筆なり又三江和尚の像を安す堂内左右の兩壇あり木下二位法印同法院の妻尼さいに及堀監物ほりけんぶつの像を安す堂内莊麗を極む前庭あり小堀遠州の好匠に出づ池二ツあり一を鶴龜の池といひ一を蟠龍ばんりゆうの池といふ祖堂より廟舎に至る長廊あり額を掲ぐ臥龍ふりりゆうといふ雪月堂の筆なり數十段の石階を登りたる處即是れ廟舎なり東西三間半南北四間にて寶形造なり豊太閤の影は唐冠白袍政所の影は法體花帽子なり此殿は北政所の館に在りしを此に移されたるものにて修飾しゆしやくの莊麗實に善美を盡せり長押の上に三十六歌仙の額を掲ぐ書は土佐光信、和歌は八條智仁親王の筆なり時雨ときかみの亭及傘の亭は千利休の造る所なり又當寺の境内は萩はぎを以て有名なり之を高臺寺の萩といひ京名所の隨一たり

双林寺

時宗、東大谷の南に在り開基は傳教大師にて本尊藥師佛
 は同大師の作なり國阿上人之を時宗に改む西行庵は堂の西方に在
 り西行法師此處に閑居し建久二年二月十五日に歿す西行塔あり又
 平判官康頼（やましろ）當山の風景を愛し山莊を茲に構ふ治承の初流刑を受け
 後ち歸洛の日直に此所に籠居し寶物集を作れり寂照（さくしやう）庵（いん）の
 又順阿塔あり順阿上人は和歌を以て鳴る草庵集續草庵集の著あり
 上人も此地に住せりと境内幽雅にして圓山の快豁と双々東山の好
 一對たり

女御田

双林寺の西北隅に在り祇園女御の館跡なりと後世寺とな
 し蓮華院と號せしが其後亡滅す方二間餘鋤鉞を入れざる叢あり之
 に觸れば祟ありとて荒廢に屬せり

東大谷

西大谷に對して東大谷といふ大谷派本願寺の祖廟なり長

欠

MISSING

き經營中なり又當院第十七世の門主尊圓法親王入木道一流の筆法
を起さる世に粟田御家流といふもの是なり

植髮御影堂 青蓮院の北に在り本尊は阿彌陀佛にして右方に親鸞

上人植髮の像を安す其像は上人九歳にして青蓮院慈鎮和尚に就き
剃髮せし時和尚其童形を摸し翠髮を剃り之を植るしものなりと長
三尺許小葵の直衣に薄紅梅の衣を着し龜甲形紫色の指貫を穿ちて
雲細縁の褥に立てる像なり

圓山公園 古の所謂眞葛ヶ原にして祇園林より知恩院境内の北

東大谷の邊一帶の地なり東山風光第一と稱す一株の垂枝櫻あり巨
幹繁枝稱世の名木なり開花爛熳の候には花下遊入群をなし夜に入
れば篝火を焼て幽艶一層なり世に之を祇園の夜櫻といふ

八阪神社 官幣中社、祇園町の東端に在り祭神は素盞鳥尊にして

稻田姫、八王子三女五男を合祀す中臣坂抄に曰く清和天皇の貞觀十八年疫神祟たひりなを作し萬人病を發すと以の外なり靈祖日良麿京中の男女を引ゐて六月七日十四日疫神を神泉苑かみに送る其次の年又疫神祟るほどに百姓神興かみとしを神泉苑に送る爾來年々六月七日に如此かくのまどくしつけて是を祇園ぎえん給といふなり其神興を置く所は八阪郷感神院といふ寺なり是に神殿なきほどに昭宣公の御殿を參らせられて其を神殿とし是を精舎せいしやといへるに因よみて後人祇園の名を加へたり然る間今に祇園は神社造にてはなきなり云々是れ當社の濫觴らんしやうなり境内攝末社多し有名なる祇園會は毎年七月十七日廿四日を以て執行せられ十七日あには神興本社を發して四條の御旅所かみに神幸あり廿四日に還幸せらる氏子町内よりは各種の山鉦やまかねを出し其盛觀實に海内無双の祭禮なり境内に攝末社多し參詣晝夜間斷あることなし

祇園新地 四條大橋より東幾條いくじょうの市坊いちぼうを包括ほうくわうする一帯の地は有名

なる祇園新地なり之を甲乙の兩部に分ち乙部は俗に膳所裏ぢやんじよらといひ古來祇園新地と稱するものは今の祇園新地甲部是れなり寛政十二年十二月二條新地七條新地北野新地と同時に遊廓を許されたるものにて初め眞葛まがせヶ原がはらの茶店にて茶汲女ちやくみよを置きしより嫖客びやうかくの來遊するもの漸く多く隨つて茶店を増設するに至り遂に島原の出店でみせとなりしが天保十三年閣老水野越前守の改革令かいかうにて遊女は島原しまはらに立退たちひきかしめらる是より先き文化十年を以て許されたる女藝者おんなげいしやは大半樓婢ろうへいとなりて再許の日を待ち居りしに嘉永四年十二月更に十ヶ年の期限を定めて再び遊廓ゆうかくを許可せられ爾來次第に繁昌し青樓妓院せいろう戸々相接し加ふるに維新以後島原漸く衰おとろへて此地益々繁華はんかを加へ名媛美姫めいぎの驥北きほくとして緡紳しんしん富豪ふこうの驕奢きょうしやを圖たくはし粹客すいかく通士つうしの遊遊ゆうゆうを爭

ふの場となれり有名なる都踊は明治五年始めて林下町松の家府に於て催ふせしが大に世人の喝采を博したるより遂に歌舞練場を新築し年々四月一日より春風聆蕩の候を以て之を催ふすに至れり

四條劇場

四條大橋東詰に在り永祿年中名古屋三左衛門なる浪士出雲のち國といふ風流女と語らひ其當時荒廢せる名祠古刹に修繕を加へん爲め各地社寺の境内にて女踊躍を勸進せしに始まり遂に進んで男女立合の狂言を仕組み之を歌舞妓と名け北野芝生、祇園南林、五條橋以南の磧にて興行しけるが豊公伏見城より上洛の時見物群集して其行莊に妨げあるを以て四條磧に移さしむ其後一種の弊害ありとて禁止せられ爲に中絶せしを承應二年村山又兵衛なるもの四條磧中島にて再興し又細手四條の北に移し寛文中今の地に轉じて常芝居となれり當時南北二座ありしが北座は近年西陣

に移轉して千本北座と稱し今此地には南座一座となれり、其他花見小路に祇園館、新京極に常盤座、阪井座、夷谷座、福井座、榮昇座、西陣に岩神座、中竹座等を始め幾多の劇場あれども皆近年の建築に係れるものなり

四條大橋

京都唯一の鐵橋にして明治七年の架設に係る東岸は祇園新地にして西岸には先斗町の遊廓あり京都繁昌の中心たる四條通に架するを以て橋上の往來宛如織るが如くなり

四條河原の納涼

四季名所の一として有名なり毎年七月の初より沿岸の青樓、席亭乃至割烹店は水に枕んで假床を設け上は二條橋頭より下は松原橋の邊に及ぶ左れども納涼の本場とも稱す可きは所謂四條河原にして三條橋より四條橋までの間とす河原には無數の床几を列ねて縦横幾條の逕をなし鴨川の清き流は床下に涼を送りて來るあり萬燈は星の如く流光に宴を催ふし都名所圖繪に所謂

「妓婦の今を盛といろはへて芙蓉も及ばざる粧ひ蘭麝のこまやか
 に薫り南へ行き北へ行き淹茶の店に休ふては山吹の色香に酔を醒
 し香煎には鴨川の流を汲で京の水の軽きを賞し」云々と今も昔も
 河原の納涼、其盛況は筆にも詞にも中々に及び難かるべし
 檀王法林寺 浄土宗、三條大橋の東北詰に在り境内に主夜神祠あ
 り參詣多し

頂妙寺 日蓮宗、仁王門通に在り多聞天と持國天の二尊を安す共
 に運慶、安阿彌師弟の作なり感應新たかなりとて參詣多し

要法寺 日蓮宗興門派の本山にして開基は日尊上人なり糸橋通に
 在り本堂には日蓮上人の影を安す

妙傳寺 日蓮宗、十六本山の一にして關西身延と稱す

栗田神社 青蓮院の東山腹に在り祭神は素盞鳴命及八王子なり

御猿堂 金藏寺と稱す安置する所の三猿の像は傳教大師の作なり

本尊を米地藏と稱す傳教大師唐土將來の像なり

熊野神社 聖護院の森に在り後白河上皇が熊野新宮を勸請して當
 所に鎮座したるなり

聖護院 天台宗、三井寺門主の隨一にして維新以前迄は法親王在
 住するを格とせり院は聖護院町に在り開基は智證大師なるが中興
 の祖増譽僧正は三井寺の長吏にして熊野三山の別當たりしより當
 院も亦修驗道を兼ね山伏を司管せしなりといふ山伏には天台、眞
 言の二流あり眞言派は三寶院之を司り天台派は聖護院之を管せし
 ものなりといふ

満願寺 日蓮宗、岡崎村に在り開基は僧最珍にして天慶三年七月
 菅神の神託により創始する所なり初め眞言宗なりしが東山帝の御
 宇元祿十年同寺の宗遍僧都立本寺の日亨上人に歸依して其寺を讓

り夫より日蓮宗の道場となれり同十四年勅により今の地に移り寶永年中勅願所となれり當寺境内は舊法勝寺の地にして今の書院は俊寛僧都の居坊なりしといふ

琵琶湖疏水運河

我邦未曾有の絶大事業として有名なる琵琶湖疏

水運河の事業は時の京都府知事北垣國道が計畫起工する所にして其目的は舟楫の便を興し交通の利を興ふると同時に水力を利用して電氣を起し以て機械運轉の資に供し京都市民の爲め無盡の富源を得んとするに在り明治十四年夏始めて水路を實測し爾後百千の障害を排し同十八年に至り中央政府の特許ありたるを以て同年六月起工の式を擧げ同廿三年四月 天皇 皇后兩陛下の臨御を辱ふして竣功の式を舉行したり水路幹線は近江國大津三保崎湖岸より京都市鴨川東岸に至る延長六千七百七間餘費を投ずる百十九萬餘圓

人夫を使役する四百萬四年八月を閉して竣功せり大津三保崎の湖岸を京都築地といふ大津運河及第一隧道間鑿の土石を以て築く所なり湖岸より第一隧道東口洞門迄を大津運河といふ其間暴漲を禦ぎ水量を整ふる所の開門及堰門あり第一隧道は東口三井寺山下より西口藤尾村に至る延長千三百四十間其中間に井狀坑二あり空氣流通光線注射の用を兼ね第一隧道西口より二千二百七十三間餘にして第二隧道は宇治郡御陵村に在り延長六十八間餘同西口洞門より百四十五間餘にして第三隧道あり延長四百六十七間日岡山下に在り同西口洞門より九十二間餘にしてインクラインに達すインクラインは日岡より南禪寺町に至る延長三百二十間鐵軌四條を布設し山上に舟を上下す亦是れ一大奇觀なり南禪寺町舟溜より鴨河東岸に至る延長九百九十八間餘にして鴨河新運河に注ぎ伏見町に

達し淀川に入る而して京都電燈會社、京都電氣鐵道會社等其他水
力を利用するの製造會社等日を追ふて續々増加せり京都市無盡の
富源は琵琶湖畔より滾々として流れて盡さざらん

南禪寺

臨濟宗、五山の二なり弘安年中龜山上皇此地に離宮を經
營し玉ふ宮中恠異多し故最勝光院僧正道智昔し此地に棲む世に駒
ヶ岳の僧正と稱す其靈障をなすなりといへり正應四年東福の釋
普門當寺の開山にして無闕和尚勅命を以て二十の禪侶を率て宮中に安居
を結ひて坐禪しけるに恠物跡を匿し上下安寝せり上皇感の餘普
門を禮して伽梨鉢多を受け玉ふ又宮殿を草めて寺となし遂に佛殿
を創建し玉ふ山門は五鳳樓と號し寛永年中藤堂高虎の再建なり南
禪院には龜山上皇の宸影を安す佛殿は本年一月炎上したれど尙ほ
毘盧頂(方丈)龍淵室(書院)天授庵開山の塔所歸雲院南院國師の塔所等あり境内

六萬三千五百餘坪羊角嶺、獨秀峰、駒ヶ瀧、神仙住境等の勝地あ
り又山門の邊に萩多し初秋には株々錦を栽し枝々珠を綴れり之を
南禪寺の萩といひ高臺寺と共に萩の名所なり

金地院

南禪寺塔頭なり應永年中大業德基禪師足利義滿の歸仰に
より北山に當院を創創す慶長中以心崇傳和尚當地に移して規模を
擴張す之を當院の中興とす東照宮の靈廟あり當院は徳川氏の台命
により構造したるものにて結構の宏麗にして其規模の豪壯なる日
本建築の粹を極めたるものなりとて美術家の深く歎賞する所なり
永觀堂 淨土宗西山派、南禪寺の北に在り本尊を願本尊といふ
當寺初めは眞言宗にて清和帝の勅願により建立せしが文永年中今
の宗に改めたり境内に鶯池あり池邊に櫻楓多し風光四時を兼ね就
中晩秋には錦紅池水を染め雅俗の來遊殊に多し祖師堂石壘の下に

老楓あり岩垣楓といふ

若王子神社

永觀堂の北に在り白河帝の草創に係り天台宗に屬せ

しが維新後より若王子神社となれり那智神社を祭る往古は殿宇莊嚴を極めしが應仁の亂に荒廢せり山腹の地は當時の庭園の舊跡なる由にて山に據り泉石を點綴し四時の風光兼愛す可し山中に飛泉あり高一丈餘炎暑の候都人避暑第一の勝地なり

光雲寺

禪宗、東福院之を建立せり什寶に瑪瑙石の手水鉢あり

靈鑑寺

禪宗、鹿ヶ谷に在り禪宗開基は靈鑑院尼公にて本尊不動

は智證大師の作なり

談合谷

鹿ヶ谷の上二丁に在り法勝寺の執行俊寛の別莊たりし處

なりと眺望絶景なり

安樂寺

淨土宗、住蓮山と號す鹿ヶ谷に在り後鳥羽帝の官女鈴虫

松虫の二姫が尼となりたる處なり

法然院

淨土宗、一名萬無寺といふ安樂寺に接せり法然上人草庵

の舊蹟なり

如意ヶ嶽

俗に大の字山といふ往古淨土寺回祿の時其本尊飛て此

山に至り光明を發したりとの故事により毎年七月十六日火を山腹に點せしが弘法大師始めて火を大字形に燒き獻覽に供したり其後久しく中絶したるを足利義政の代に相國寺の横川和尚と其臣芳賀掃部に命じ之を再興せしめ繼續して今日に至る維新後八月十六日夜に點火す亦た都下の壯觀なり山上に如意寺の舊跡あり瀑布あり如意寺の樓門の側に在りしより樓門の瀧といふ

黒谷光明寺

淨土宗、黒谷に在り當寺は法然上人閑棲の所なり上

人始め叡山の西塔黒谷に住せられしより此地を以て新黒谷と號す

元の名は栗原の丘さかなり本堂には圓光大師の像を安す其像は大師の自作にて藝州瀬戸田に安置せしを徳川家康命じて之を移したるなりと西の脇壇に親鸞上人の像を安す佛殿は本堂の東に在り本尊阿彌陀佛は源信僧都の作なり僧都一生の間彫刻せられたる佛像の中に就て此像は工の終おはりなるが故に俗に之を乙おとの如來といふ勢至堂は圓光大師の廟にて本堂の東南丘に在り大師入寂の像を安す熊谷堂は勢至堂の下に在り蓮生坊居住の所なりと又敦盛あつり及熊谷くまがひの塔あり勢至堂の東石階を上りたる處に三重塔あり文珠菩薩を安す本邦三佛の隨一にして靈驗古今に著るしと傳ふ塔の北半丁餘紫雲石あり法此上人の遺跡なり又觀音堂に安置する千手觀音は吉備大臣が唐土に於て感得したる靈木を以て行基菩薩と心を合て造れる靈像なり方丈の北庭に鏡かがみの池あり熊谷入道其着せし鏡を洗あらいふ所なりと又

鏡の松は堂前に在り此枝に鏡を掛けて乾かじたるが故に名くと山門は巍然あざむとして聳立す毎年三月、十月の十三日開扉かひをなし閣上に登らしむ當寺に法然上人自筆の一枚起請文あり第一の什寶たり

眞如堂 天台宗、鈴聲山眞正極樂寺といふ戒算上人の開基なり本尊阿彌陀佛は慈覺大師の眞作にて頗ふる縁起を有す叡山常行堂に安置せしが永觀年中雲母坂地藏堂に遷し又元眞如堂の地今の方丈即ち白河女院の離宮を佛閣とし之に移したり文明九年又今出川の寺町に遷り同十六年足利義政之を復せしが文龜三年再び今出川に轉じ元祿五年回祿の災に罹り重ねて此地に復し今の堂塔を造營せり境内一萬五千餘坪元三大師堂の影像是大師の自筆石藥師堂の藥師佛は初め禁裏きんりに在りしを正親町帝の御宇當院の本尊とし當所に遷し玉ふ其他方丈、經藏、善光寺如來堂、地藏堂、鐘樓、稻荷社等

白雲紅葉の間に散在し實に幽靜寂寥の靈場たり

大興寺 禪宗、後鳥羽院の勅願建立なり本尊藥師佛は佛師運慶に命じ叡山中堂の藥師佛を摸して作らしめ玉ふ處なり關羽の像は足利尊氏の軍神にして彼國渡來の品なりと

迎稱寺 時宗、本尊不空縹索觀音は惠心僧都の作なり

東北院 時宗、本尊辨財天は傳教大師の作なり當寺は平安京開闢の時王城鬼門の鎮護として傳教大師の草創に係る其地は小川通の北にして大内裏の東北に中りしなり中古時宗となり又今の地に移れり

吉田神社 官幣大社、神樂岡に在り貞觀二年山蔭中納言の勸請なりといひ又下部兼延の造立なりともいふ本殿には安藝槌神、經津主神、天津兒屋命姫神を鎮坐せり「日本最上日高日宮」の額は嵯峨

帝の宸筆「大元宮」の額は後土御門帝の宸筆「日本國中三千餘座天神地祇八百萬神」の額は清水谷實秋の筆なり日本國中の神祇は本殿の東西に其國名及神社の數を記して鎮座せり本殿の後に八神殿其額は後土御門帝の宸筆なり此神殿は大内裏の時神祇官に在りしを豊臣秀吉聚樂第を築くに際し今の地に移したるなりと又内宮、外宮は八神殿の東西に在り境内廣潤社殿壯嚴なり毎年四月十八日を以て官祭を行へり

百萬遍 淨土宗、知恩寺といふ淨土宗四本寺の一なり神樂岡の西北に在り慈覺大師の草創にして賀茂上下宮の法樂修法の寺なり初め神宮寺と稱せり今出川に在りしを足利義滿相國寺建立の時之を移し再三轉して今の地に移れり淨土宗となりたるは法然上人賀茂の神勅により住持弘法せられたるが爲めなり當寺を百萬遍と號す

るは後醍醐帝の御宇天下疫癘大に流行せしかば當寺第八世善阿上人に勅して鎮護國家の法を修せしむ上人念佛すると一七の日一百万遍に至りて惡癘稍く止みたるを以て獻感殊に斜めならず百萬遍の號を賜ひ又弘法大師の筆蹟六字の名號を賜ふ其字畫の餘る處皆劍をなすを以て利劍の名號といふ夫より當寺に於て此法を修する時は此名號を以て本尊とせり世上災疫ある毎に御祈願の勅命を受けざるとなかるべしとぞ什寶に松蔭の硯あり

干菜寺 百萬遍の北にあり光福寺と號す豊臣秀吉に干菜を多く獻ぜしより山號を干菜山と賜はり世俗干菜寺と稱せり當寺は六齋念佛の本寺たるを以て毎年七月十五日近郷より集り六齋念佛を執行す

銀閣寺

禪宗、慈照寺と號す鹿ヶ谷の北に在り此地は足利義政開

居の別荘なり世に之を東山殿と號せり薨後遺命を以て寺となせり夢窓國師を開祖とす方丈は即ち義政の館趾なり東求堂は義政の持佛堂にして觀世音を本尊とし又義政の像を安せり堂中に四疊半の茶湯の間あり義政の特に愛せし所にして茶亭に於ける四疊半の澗觴なり之を相阿彌の茶室ともいふ室内一切の畫は狩野古法眼の筆なり二重の高閣あり義滿の金閣に準じて之を銀閣と號す然れども箔を鏤むるに及ばずして義政薨じたれども其趣向に依りて名くとぞ故に銀箔ありと思ふは非なり閣の上層を心空殿と稱し其下層を潮音閣といふ寶形造柿葺にして棟上に紫銅の鳳凰あり上の閣は三間四面觀世音を安す下の閣は東西三間宇南北四間あり庭園は義政の命を以て茶道家相阿彌之を造れり山水の布置其妙致を極め末代築庭の模範とする所なりといふ

將軍地藏 北白川の東北瓜生山に在り本尊地藏菩薩は青石の面に彫刻せり由來不詳

北山御坊 本願寺派別院なり一乗寺村に在り初め聖水山舞樂寺と號し山門の末院なりしが眞宗の開祖親鸞上人叡山に在るの日一宗開發の祈願の爲め山より來りて境内の靈水に浴し京都の六角堂に參詣するを例としたりと當時堂塔頗る壯嚴なりしが爾后漸く衰て終に本願寺の有に歸し同寺第九世實如上人新たに堂舎を建立せしも寂如上人の時之を山科に移したり今の堂宇は法如上人の建立なり堂の前に靈水あり又影向石あり

金福寺 前同所に在り寺の後丘に一字の草庵あり芭蕉庵といふ昔金福寺の僧鐵舟芭蕉翁の俳句を聞き忘機逃禪の境を得たるものなりとし屢ば此庵に招聘して寄宿せしめたるものなりと

詩仙堂 一乗寺に在り石川丈山の遺跡として世に有名なり丈山曾て本朝の三十六歌仙に擬し漢晋唐宋の詩家三十六人を撰み狩野尙信に托し堂の四壁に畫像を畫かしめ自から其詩を之に書せり是れ其堂の詩仙と名くる所以なり

圓光寺 禪宗、當寺初めは野州足利の學校にして慶長六年徳川家康之を伏見の指月に移し其後相國寺内に移し寛文中今の地に移せり開基は三要和尙にて足利學校第九世の僧なり

曼珠院門跡 天台宗、一乗寺村東北の山に在り山門の庵主なり或は竹裏門主といふ天慶年中北山に建立せられ中古より禁裏の傍らに移され明曆二年良尙法親王の代今の地に移りたり

雲母阪 是れより叡山に登るの路なり此阪王城に向ふ旦夕雲覆へり京師より之を望めば此阪雲を生するに似たり故に雲母阪と名く

と雲母寺は阪麓に在り傳教大師の開基なり石川丈山筆の雲母寺と題する横額を掲ぐ

叡山 滋賀縣の部に詳載せり就て覽るべし

修學院離宮 山端はなはの東に在り後水尾帝離宮の舊址にして林苑は分

ちて上下の二となし上苑は爽快にして下苑は幽靜なり上苑の亭榭

に鄰雲亭、止々齋、窮遠軒等あり池あり浴龍池といふ名石奇樹を

布置し下苑の亭榭に晴月觀、藏六庵あり老幹巨枝鬱茂するに任し

幽邃いふ可らず實に稀世の林泉なりといふ

赤山社 天台の護法神を祭れり智證大師唐朝より歸朝の時共に來

朝の神なりと赤山は彼國に於て鎮座の地名なり

寶幢寺 淨土宗、高野村に在り本尊阿彌陀佛の相貌奇偉なり故に

佛工等の來拜するもの多し

御蔭社 叡山の西麓に在り下加茂明神際臨の地なりと傳ふ

入瀬天神社 入瀬村に在り鎮座の由來不詳境内に辨慶石、鬼ヶ洞

等あり

魚山勝林寺 大原寺ともいふ本尊を證據の如來と號す文治年中有

名なる法然上人の大原問答のありしは此寺なり

淨蓮華院 勝林寺の東南に在り開基は良忍上人融通念佛濫觴の場

なり獅子石、如來藏等の奇跡あり

魚山三千坊 天台宗、淨蓮華寺の東に在り開基は良忍上人なり慈

覺大師入唐の時大原魚山にて梵唄聲明を傳來り之を山門に傳ふ良

忍上人之を中興し因て當寺を開き彼譜を傳へ長く聲明の本山とす

今尙大原聲明と稱せり

音無の瀧 三千坊の東に在り、飛泉下ると六丈濶二間五尺

古知谷阿彌陀寺 淨土宗、勝林寺より十八丁彈誓上人の開基なり

此地は昔鶯谷と稱し杉樹幽逕を圍み堂後の山上には開山窟、禪公窟、鉦掛松、自然石等の佛像あり其他勝地多し

寂光院 淨土宗、古知谷の南に在る尼寺なり平家滅亡の後建禮門

院西海より還幸して此所に閑居し玉へり建禮門院、阿波内侍の影像を安す内侍の影は女院御一門より來れる消息を張貫の作にて衰老の姿なり

北 部

下加茂より松ヶ崎を経て鞍馬
渡船に出て岩屋の邊に至る

加茂川 鴨川ともいふ愛宕郡岩屋の山陰より發源し鞍馬貴船の二

水を合し下加茂に至り高野川と合し南流して京都市を貫き又西南に走りて下鳥羽に至り桂川に瀉ぐ流域凡四里水は潺湲として砂礫

の間を流れ清晶玉を轉するが如し有名なる川千鳥は三本木邊にて聞くを最も佳なりとす蓋し京都の秀靈は東山と鴨水とを得て始めて全たし所謂山紫水明の地是れなり

糺 鴨、高野の兩川相會する處を糺河原といひ其森林を糺の森といふ御手洗川の清流別に加茂社頭より注いて河原を通過するあり

三伏の炎暑には水に枕で涼棚を設け清爽愛す可し避暑の好地なり

加茂御祖神社 官幣大社、祭神は玉依毗賣命、大山咋神なり世に

之を下鴨社といふ玉依毗賣命は上鴨神の尊母なりと社殿は天武帝

白鳳六年の創立にして樓門の左右に廻廊あり神殿は二殿双立して

南面せり樓門の内に比良木神社あり當所の地主神なり此所に諸木

を移植すれば皆な變して柃木と化すること亦一奇といふ可し井上

社、雷殿、細殿、橋殿等其他攝末社の數甚だ多く殿堂數十棟莊嚴

無比の大社なり葵祭は欽明帝の御宇に始まり勅使の参向あり儀式
嚴重にして行粧美々しく有名なる祭禮なり維新後一時廢絶せしが
近年再興して毎年五月十五日を以て執行し儀式凡て舊時に異なる
となし祇園會と共に京都の壯觀たり

松ヶ崎本涌寺 ほんゆう 日蓮宗、日生上人の開基なり安置する所の大黒天
は靈驗赫著なりとて參詣頗る多し

松ヶ崎妙泉寺 日蓮宗、日像上人の開基なり當寺の後山を妙法山
といひ毎年八月十六日の夜妙法の二字を燒き聖靈會の送火とす同
夜當寺の堂前に村内の男女集まりて題目踊といふを催ふせり

三宅八幡 みやけ 祭神は應神天皇なり俗に之を虫八幡と稱し參詣多し
岩倉實相院 いわくら 天台宗、北岩倉に在り圓融帝の勅願所にて知辨僧正

の開基なり行基菩薩作の觀音を安置す當寺は元と岩藏山大雲寺と

いふ實相院義尊之を再興してより今の院號を通稱するに至れり本
堂に掲る大雲寺の額は佐理卿の筆なり又此地を岩藏と名くるは平
安京創創の時 詔して王城の四方に石藏を營み經王を納められ即
ち其北に當るを以て北岩倉の名ある所以なりといふ

大慈山定峯寺 天台宗寺門派、山城丹波の國界にして鞍馬の北五
里に在り觀音堂あり平相國清盛の營みし所なりといふ

鞍馬寺 くらま 天台宗、鞍馬山腹に在り開基は鑑真和尚なり佛殿は延暦
十六年藤原伊勢人の草創にして毘沙門天を安置す今の堂は明治四
年の再建なり堂の前に七十八段の石階ありそれより樓門に至る迄
八丁樓門には金剛力士を安す其額は粟田尊證法親王の筆なり例年
一月初寅の日は諸人遠近より群參す本堂の西二丁許に空也上人の
舊跡あり僧正ヶ谷、牛若背鏡石、不動堂、太郎坊社等あり老杉巨

檜蔚然として全山を掩ひ巉岩奇石逕路を遮り殊に太郎坊社の邊は牛若丸劔術練磨の所なりと稱し石面劔刀を以て截るが如く挑石、陰石、據石、足駄石、硯石、水入石等の名をなせり又僧正谷の北に路あり貴船に至る行程二十四五丁なり

由岐神社 祭神は大己貴命、少名彥命なり拜殿は豊臣秀吉の建立なり

貴船神社 官幣中社、鞍馬の西貴船村に在り水神罔象神を祭る

古より請雨止雨を祈願するに應驗多しと傳ふ社殿二あり下の社、奥の社といふ龍王の瀧あり此瀧に來り雨を祈ると舊例なり奥の社の拜殿の傍らに石を積で船形となす南北二間高一間之を御船といふ

大悲山圓通寺 禪宗、幡杖に在り本尊觀音は西國順禮の一なり

御菩薩池 往昔此池に地藏菩薩現じたるが故に名くと又一説には

同村の中に六地藏の隨一を安置するを以て名くと由來不詳毎年八月廿三日同村民集合して地藏會を行ふ

加茂別雷神社 官幣大社、下鴨より鴨川を溯ると半里餘之を上加

茂社といふ祭神は別雷神とす桓武天皇以前の名祠なり社殿の結構は下加茂社と相伯仲す祭日は下加茂と同日にして別に五月五日を以て競馬の神事あり騎射の古例により起りたるものにて頗る優美なり之を賀茂の競馬といひ世に喧傳す

岩屋山金峯寺 愛宕郡出谷村の北に在り京都より六里、眞言宗な

り奥堂の本尊は不動にして菅神僧に化し此所に來りて造立する所なりと傳ふ當山は往昔藥王菩薩出現の靈場にして役行者の創立なり弘法大師參籠して秘法を修せりと云ふ護摩、修法の洞今尙在り

堂後の岩窟より香水滴出す

棧敷ヶ嶽 岩屋の北三十丁餘是即ち惟喬親王眺望の高樓ありし地なりと晴天には山城の界及び難波津等見ゆ麓の林中に三本竹と號する竹あり太さ杖の如し三本生て毎歳三本の筭を生す其長するに及んで始の三本自から枯る親王の鞭が生たるものなりと云ひ傳ふ正傳寺 禪宗、西北の後峯を妙見堂といふ毎年八月十六日夜船の形を點火し聖靈會の送火をなすは此山なり

北西部

今宮神社より北西部を編羅し太秦廣隆寺に至る

今宮神社 祭神は事代主命大己貴命稻田姫の三體にして攝社に素盞鳴尊の祠あり一條帝の御宇正曆五年六月廿七日船岡山の上に祀りけるを長保二年紫野に移して今宮と崇めらる例祭は五月十五日

にして之に先ち同月五日を御出と稱し船岡山なる御旅所に神幸あるなり又四月十日は徘徊祭として近方の里民異様の扮装をなし鉦鼓を鳴し「ヤスラヒ花よ」と囃し此社を廻るの神事あり

大徳寺 臨濟宗、紫野に在り開祖大燈國師初めは東山の雲居庵(今の高臺寺の地)に在りしが元應元年赤松圓心黄金若干を贈り紫野に一小院を建てしむ師の徳天聽に達し正中元年後醍醐帝より地基を賜ひ伽藍を草創せしめらる名けて龍寶山大徳寺と號す同二年花園上皇の祈願道場となる元弘三年後醍醐帝勅して朝廷第一祈禱處と稱せしめらる此時祖塔に掲る禪苑の勅額を賜ふ全年十月五山第一となす建武二年花園上皇自ら御薙髮ありて本寺に賜ひ靈光なる塔額を賜ふ(享徳の火に焼失す)寺域六萬八千四百餘坪松檜蔚然實に禪寂無塵の大道場なり總門を入りて勅使門あり是は御所の陽明

門なりしが明正帝之を當寺に賜へり山門は三解脱門ともいふ連歌
 師宗長の修造せし所なり其閣を金毛閣といふ千利休の造營に係る
 釋迦、阿難、迦葉及十六羅漢を安す佛殿を大雄殿といふ本尊は釋
 迦佛なり法堂は其北に在り赤松氏の創立なり佛殿の東に池あり官
 池といふ之に架するを梅橋といふ橋を渡りて經藏あり善慧大師の
 像を安す方丈は叡山の玄慧法印之を創立す其額は張即之の筆なり
 雲門庵には花園帝の御髮塔及開山の像を安す靈光の額は後土御門
 帝の宸筆なり後醍醐帝宸筆の禪苑の額は本邦無双の品なり唐門は
 世に明智門といふ明智光秀の建立にて日暮門は豊公聚樂亭の舊門
 なり什寶の重なるものは觀音月靈觀音、龍、虎、猿、鶴の五幅牧溪筆
 十王像十幅隆信筆十六羅漢像十六幅光嚴司筆等にして其の他頗る多
 し二十四塔頭あり眞殊庵は其一にして方丈の北に在り開祖は一休

欠

MISSING

椿寺

北野下の森の西五六町の所にあり椿の大樹あるを以て世人

椿寺と稱し終に寺號となれり寺内に忠臣藏演劇にて有名なる天川

屋義兵衛の墓あり賽するもの多く四時香花絶へず

絹笠山

眞如寺の西に在り等持院の後山なり一に絹掛山といふ寛

平法皇御室に於て炎天に深雪の眺望を作り玉ひ此峯に白絹を掛さ

せ玉ひたるより此名ありと

等持院

禪宗、絹笠山の麓に在り開基は夢窓國師にて足利尊氏の

建立なり佛殿の北に照堂あり足利氏累代將軍の影像を安す衣冠持

笏帶劍の坐像なり維新前の擾亂に勤王の浪士が幕府の專横を憤ふ

り斬て三條橋に梟したるは此像にして今安する所は其後收めて以

て接合したるなりと足利尊氏は當院に葬られ塔は照堂の西に在り

同義詮の墓も北の山下に墓所と稱する封地あれども墓石は兵亂の

爲め亡失せり中門に掲る等持院の額は義滿將軍の筆なり

龍安寺

禪宗、等持院の西に在り開基は義天和尙なれども先師の故を以て日峰禪師を開祖とせり細川勝元の建立なり此地は徳大寺家の山莊なりしが勝元之を懇望して其別莊とせり徳大寺公有より贈らるゝ所の袖判の讓狀一通今尙當寺に藏せりと當寺の本堂は始め東福寺塔頭の照堂なり乃ち天井に畫ける龍及び迦陵頻伽は北殿司の筆蹟なり方丈は勝元邸内の書院にして前庭の假山は勝元の作る所なり門前池あり冬季は鴛鴦の來りて游泳す古來龍安寺の鴛鴦とて世に有名なり

妙心寺

禪宗臨濟派の本山なり洛西花園村に在り此地初めは左大

臣清原夏野の別業にして子孫相襲て之を領せしが花園上皇其風色を愛し給ひ時の領主清原良枝に轉地を賜ひ離宮となし給ふ上皇禪

法に歸依し給ひ離宮を革めて梵刹となし關山國師を請じて開祖とし給ひ正法山妙心寺と號す上皇は別に一院を創して閑栖し給ふ是を玉鳳院といふ爾來歷代の御信崇淺からず一流の法脉浩蕩として永世窮りなし寺域方五丁餘殿堂伽藍の宏麗なる浴中有數の巨刹なり山門の閣上には觀音大士及月蓋長者善財童子十六羅漢像を安ず天井には華藻彩色の畫あり山門を入れば四楹の松あり四派の松といふ當山塔頭は分れて龍泉東海靈雲聖澤の四派あり故に表して其名とす佛殿の本尊は釋迦如來にして大佛師覺清の作なり法堂は明曆二年の再建にして東西十三間南北十一間棟梁の木材は遠く日向國より之を求め柱は花井紹隆なる人富士山麓より伐採して悉く寄附したるものなりと天井の龍は狩野探幽が全幅の神精を奮ふて揮毫せし所に係り極彩色にして筆威古今無双と稱せらる寢堂あり小

方丈あり大方丈は承應二年の改造なり近年正面に祠堂壇を設け未
 寺檀信徒の祠堂牌を安ず正面唐戸口に掲る方丈の額は明朝張即之
 の筆、襖の書は室中及東西の三室は狩野探幽の筆、裏の二室は狩
 野益信の筆なり開山堂は微笑庵と號す關山國師の像を安ず堂は大
 永八年の造營なれども他の古堂を移したるものにて極めて古代の
 建物なり涅槃堂は黃銅の涅槃像を安じ兩脇壇には當山歷代祖師の
 牌を安ず近年諸國末寺檀信徒の納骨をなさしむ祥雲殿靈舎は豐太
 閭の嫡男乘君乘船の像を安ず武田信玄同勝頼同信勝同信豐織田信
 長同信忠等の塔あり玉鳳院禪宮には花園帝法衣の像を安置す内陣
 なる螺鈿の唐戸四枚は唐玄宗皇帝居殿の具なりと傳ひ玉鳳禪宮の
 額は後花園帝の宸筆襖の書は狩野永眞の筆なり拈華室は法皇の御
 座の間なり張附の書は狩野益信の筆、紫銅二重の塔には爪字の觀

音を納む後水尾帝の皇女南都圓照寺宮文守尼公が帝の御爪を以て
 觀世音菩薩の名號を親ら伽羅木に植させられ厨子に帝の御鬘水器
 を用ひさせられたるものなりと雪江の松は當山第六世雪江和尚の
 裁ゆる所にして星霜四百三十餘年境内の一美觀なり經藏は毘盧藏
 といふ大藏一切經を納む額は伏見帝の宸筆なり浴室は塔頭太嶺院
 開祖密宗禪師が明智光秀菩提の爲め創建する所なり世に之を妙心
 寺の明智風呂といふ浴室の鐘は徳川家光の乳母春日局先妣追薦の
 爲め建立する所なり黃鐘調の古鐘は庫門の西に在り文武帝即位二
 年の秋に鑄造したるものにて千百九十七年前の古鐘なり僧堂は所
 謂禪堂なり佛殿の西塔頭天授院の内在り因にいふ同院の開祖授
 翁宗弼和尚の俗姓は藤原藤房にして後醍醐帝無二の忠臣なり後ち
 遁世して法服の身となり諸國歴遊の末當山の開祖國師に參謁得法

の上菅山第二世となれり後西院帝神光寂照禪師と謚號し尙又今
上陛下より圓鑑國師の勅號を賜はりたり塔頭四十有餘大法院に佐
久間象山の墓あり

法金剛院

妙心寺の西南三丁許一名双丘寺又は天安寺といふ四宗

兼學眞言天台淨土淨土なり開基は未詳中興は圓覺上人此地古は清原夏野の別

莊なり其二子右大臣瀧雄山莊を造り代々天子臨幸の事三代實錄等

に見ゆ其後寺となして双丘寺と號せしが年あつて荒廢に屬したる

を崇徳帝の御宇大治五年待賢門院之を再興し法金剛院と號せり

双の岡

法金剛院の西北に在り南北に亘りて三岡相双べり一の岡

二の岡三の岡の名あり

御室仁和寺

眞言密乘の巨刹なり光孝帝の御願にて仁和四年八月

に創建す故に仁和寺の號あり後ち寛平上皇御出家ありて此地に宮

殿を造營し宸居とし給ふ故に御室又は大内山の號あり爾來代々法

親王の法務を執りし所となり維新前までは小松宮彰仁親王之が門

跡たり蓋し門跡號の濫觴は當寺なりといふ山門には丈餘の金剛力

士、中門には二天を安す金堂の本尊は阿彌陀佛、祖師堂には弘法

大師を安し西壇に寛平法皇の宸影、東壇に性信法親王(中興)の影

を安す觀音堂あり千手觀音を安す經藏あり五重塔あり又法親王之

舊殿舎は莊嚴華美を盡し有名なる建物なりしが惜む可し七八年前

回祿の爲め焼失し今の殿舎は新造に係れるものなり寺域十萬六千

餘坪後山を大内山といふ境内は植ゆるに櫻樹を以てし櫻花の名は

殊に著るしく其櫻樹又他の櫻樹と異なる所あり幾多の年月を経る

も幹身かんしん延長することなく樹々皆な根邊より花を開き老大なるもの

は地を遺つふて蟠屈ばんくつ曲折せつせつし花時恰かも紅雪の庭園を埋うむるに似て一

層の美觀なり御室の櫻とて嵯峨の櫻と共に内外人の夙に嘖々する所たり又八十八ヶ所の靈場あり

五智山 律宗、昔は仁和寺別院なりしが荒廢年久しかりしを明暦年中江戸の人樋口某再興して山上に石彫の五智如來坐像六尺許なるを安置し本尊となす又不動、地藏等の石像を安す共に皆單稱法師として佛工の名手たる木食行者の作る所なり

栴尾山高山寺 華嚴宗にして眞言宗を兼ね當寺は開闢以來朽廢年久し高雄の文覺上人再興を企て、其功未だ全からず明惠上人其後を受けて中興せり應仁の兵燹に燒失し維新後又炎上し今は纔に一茅屋を存するのみ明惠上人は日本製茶の祖にして宇治の茶園は當寺より移す所なりといふ抑も栴尾、楨尾、高雄の三山を稱して三尾山といひ紅葉第一の名所とす栴尾は其最北に在りて山麓は清瀨

川の碧流あり之に架するに白雲橋を以てし滿山幾林の楓樹は秋霜其梢を染むれば紅雲碧潭と相映じ快絶筆紙の盡す所にあらす

楨尾山西明寺 楨尾の西四丁許、律宗にして眞言宗を兼ね平等心王院と號す開基は智泉法師中興は正忍律師なり三尾の中此山最も楓樹に乏しけれども幽雅深遠の佳趣を存すると他の二尾の及ぶ能はざる所なり

高雄山神護寺 楨尾の西南四丁許、眞言宗なり光仁帝の御宇和氣清磨奏請して之を草創し初め神願寺と號せしが淳和帝の御宇天長二年之を弘法大師に賜ひ神護國祚眞言寺と名けたり住山六年大に密乘を興す寺域二萬八千餘坪名蹟多し樓門の額は仁和寺覺信法親王の筆、金堂の本尊藥師佛は白檀にて弘法大師の作、講堂の五大尊は同作、其後堂に安する五佛并に虚空藏は眞濟僧正の作なり納

涼坊は弘法の住坊なり弘法の像を安す其像は五の御影といひ八幡大神の神作なり又文覺上人自筆の坐像を掲ぐ鐘樓の鐘は本朝三絶と稱せられ銘は菅是善卿序詞は橋廣相筆者は藤原敏行なり額書石は樓門外に在り傳云ふ弘法大師住山の時門前の川を隔て、額を立つ此所より筆を飛して文字を書す石面に凹あり之を硯とせりと抑も三尾は紅葉の名所を以て聞ゆと雖も就中高雄を以て其第一とす世に之を高雄の紅葉と稱せり奥の地藏院の邊より之を臨めば老楓清瀧川の兩岸を擁して風色壯絶なり

廣澤池

廣澤池

太秦の西北に在り帷子辻より三丁許東西二丁南北一丁許

寛朝僧正寛平法皇の御孫

の開きたる池なり古來觀月の名所として聞ゆ對岸

の山を遍照寺山といひ寛朝登天の松、佐古曾の水、兒の社、釣殿橋等其他の名跡あり

大澤池

廣澤池の西北五丁許、此池は昔し嵯峨帝の離宮に屬し名

石奇岩多かりしが後世閑院の内裏に移されたりと池中に島あり菊

島といふ島の西北畔に庭湖石といふ奇岩あり巨勢金岡が立る所なりと

大覺寺

眞言宗、大澤池の西に在り此所初めは嵯峨帝の離宮なり

淳和帝之を寺となし第二皇子恒寂法師を開基とせり代々門跡地なり本尊五大尊は弘法大師の作なり境内幽雅洛西の名刹なり

清凉寺

俗に嵯峨の釋迦堂といふ大覺寺の西三丁許に在り本尊釋

迦如來は五尺餘の立像にて赤梅檀の釋迦と稱し毘首羯磨の作にて

釋尊在世に寫したる生身の靈佛なり永觀年中南都東大寺の僧育然

宋國に渡りたる時得たる所の靈佛なり其時本尊の外大藏經五千四

十八卷十六羅漢の畫像并に器財數品を將來せり當寺始め愛宕山と

號せり後五臺山と改む故に樓門に掲ぐる所の額は愛宕山と題したり本堂の東に阿彌陀堂あり栖霞寺といふ本尊は阿彌陀佛脇士は觀音勢至なり此三尊の作者を西と號するは佛工は化人にして造り畢りて西の刻に去れる故なりと此地昔し嵯峨帝の離宮に屬し大覺寺と通せり其後同帝第十の子融公此地に山莊を設け栖霞館と號せり後ち寺となしたるなり清和帝此館に住み玉ふたる事あり又四月十九日は御身拭法會と稱し遠近より群參するもの夥たし

五大堂 眞言宗、釋迦堂の西南に在り五大尊を安す中古回祿の災に二尊焼失す現存の不動、大威徳、軍吒利夜は弘法の作、餘は皆な新作なり嵯峨帝の勅願にて弘仁中の草創なり

三塔 五大堂の前に在り北は嵯峨帝の塔中央は檀林皇后南は融大臣の塔なり

金性院 五大堂の北に在り眞言、本尊千手觀音は弘法の作なり

八宗論池 金性院の東に在り昔弘法諸宗の僧と此地畔にて問答せりと云ひ傳ふ池の側に棺掛櫻あり

祇王寺 淨土宗、往生院と號す上嵯峨に在り清盛の愛妾祇王并祇女、止知、佛等此處に隱遁せしと平家物語に見ゆ舊地は西の山上に在りしが後世此處に移せしなり

三寶寺 祇王寺の南に在り淨土宗なり横笛の歌石は門外に在り

淨息院 眞言宗、中院の西北に在り堂門に安する焰魔王の像は弘法の作にて生す所の鬚は小野篁の鬚なり

愛宕神社 愛宕山上に鎮座す祭神は伊弉册尊、火産靈尊に雷神、被无神を合祀せり當社は元と佛者の勸請なるを以て寺院に屬し朝日山白雲寺と號せしが維新後神佛分離して愛宕神社とせり山麓に

一の鳥居あり試峠、清瀧川、渡猿橋、愛宕の原等を経て鐵の鳥居に至る迄五十丁百十八段の石階あり是れより上七十三段の石階を経て本殿に達す可し當社初めは鷹ヶ峯の北に在りしが光仁帝天應元年慶俊法師今の地に遷坐し奉れりといふ愛宕郡に鎮座の故に此名ありとぞ伊勢參宮より歸るもの當社に詣るを例とし又火災を防ぐ神なりといふ

月輪寺

愛宕の山腹に在り鐵の鳥居より右に至るなり開祖は慶俊

法師にして中興は九條關白兼實公なり龍女水、白石、日暮の瀧、

高野の瀧等あり

水尾山寺

愛宕山一の鳥居の左傍より五十丁此寺は清和帝崩御の

後御追善の爲め法會を行ひし處なりと

小倉山二尊院

天台眞言律淨土四宗の兼學にて小倉山に在り開祖

は不詳中興は法然上人なり上人此山に閑居して三昧發得せり且又末代一宗機範の式七ヶ條を定め都鄙の附弟を召し九十三人自筆に各判を書せしむ今尙當寺に存せり此外一生所持の舍利、同臨終の袈裟あり影堂に安する法然上人の影像は足引の御影といひ法眼宅磨の筆にて名高し影堂の西なる法然塔の碑石は支那より渡來せしものなりと龍女池あり池中に生ずる蓮花に就て縁起あり又其蓮花の一重を以て後奈良帝の六字の名號を書し玉へり當院に藏せり西行法師の舊跡及大儒伊藤仁齋の墓あり

長明神社

二尊院門前の小祠なり祭る所は檀林皇后の髻なりと皇

后深く佛道に入り其終焉に及で御遺骸を嵯峨野に捨てしめ見者をして無常變化の理を示し且又其爛壞の相は愛執を離れしめん爲めなりと狼犬群集して四肢所々に離散す此所は鬢髮を止むる處なり

と後人之を祭りて長明神と號せりとぞ

定家卿の山莊 一説に二尊院の南なりと又一説に常寂寺二王門の

北に小祠あり定家卿を祭れり常寂寺建立の時之を山上に移せりと
常寂寺 法華宗、當寺の什物に車琴くるまことと稱する名琴あり高倉帝が小

督局に賜ふ所なり後世金吾中納言秀秋の手に在り當寺に寄附せり

龜山 天龍寺の西北に在り形龜の甲に似たり此山和歌に詠す後嵯

峨帝離宮を造り給へり後又龜山帝住み給へり

野の宮 常寂寺の西南に在り祭る所は神明なり此所は昔し伊勢太

神宮の齋内親王御潔齋の爲め伊勢に赴かるゝ前移り住み給ふ處な
り鳥居は皮附の木を以て之を作る故に黒木の鳥居ともいふ

天龍寺 臨濟宗、五山の一たり下嵯峨に在り足利尊氏の本願にて
後醍醐帝御追福の爲め建立したるものにて光嚴帝の勅願に准せら

る開基は夢窓國師なり曆應二年を以て其工を初め貞和元年八月二
十九日に落成せり此地は初め檀林寺あり檀林皇后の建立なり後ち
荒廢に屬せしが後嵯峨上皇の仙洞の御所となり龜山帝亦宸居を定
め玉ひたり寺域三萬七千三百餘坪龜山は北に聳て西後に蹠たれり佛
殿の本尊は釋迦佛にして昭堂を聯れん芳といひ額に開山七朝の國師號
勅書七通を彫れり開山像を安す左右に石塔あり左は一山ざしゆくしん耆宿閣維
の骨を藏め右は衆僧の骨及剃頭の髮毛を藏む又北の脇壇に足利尊
氏の像と其傍らに地藏菩薩を安す地藏菩薩は尊氏平日安持の像な
りといふ經藏は昭堂の前北方に在り釋迦佛を安す方丈の西に池あ
り曹源池といふ其假山は開山の作る所なり書院を集瑞軒といふ今
の佛殿は元の法堂なり舊佛殿は覺皇寶殿といひ其趾あし今の堂前に在
り山門を普明閣といひしが是亦今は亡し其の趾を存するのみ雲居

庵、多寶院、金剛院あり多寶庵には後醍醐帝の廟あり塔中に御冠を藏む

臨川寺 禪家十刹の一にして大堰川の北畔に在り當寺は龜山法皇の仙居大宰帥世良親王後醍醐帝第二の皇子の別莊なり親王薨去の後遺命を以て寺となし夢窓國師に寄附し弘法利生の地となさしむ佛殿の東に假山あり國師の作りし處なり

鹿王院 ろくわう 禪家十刹の一にして臨川寺の東五丁許開山は普明國師なり當寺の什寶に佛舍利の名珠あり

小督塚 こくづか 大堰川の北岸に在り塚に櫻あり高倉帝の宮女小督局大内を遁れ隠棲したる所ならんか平家物語に符合せり塚は後人の之を作りたるものならん又傍らに仲國塚あり仲國は當時勅命により局を尋ねて此に至りし人なり

法輪寺 渡月橋の南に在り開基不詳初め葛井寺と號し聖武帝天平六年に建立せり中興道昌眞言を弘め貞觀十六年法輪寺と改む本尊虚空藏は道昌の作なり陰曆三月二十三の兩日都下の男女年齢十三歳のもの此に參詣す之を十三詣といふ

嵐山 大堰川の南岸に在り滿山森蔚として殊に櫻樹多し芳野山の櫻と共に其名内外に噴々たり相傳ふ龜山上皇芳野の櫻を移して栽え給ひたるものなりと又楓樹多し故に春秋櫻花紅葉の時節は雅俗の來遊するもの雲の如く又花の如し其他納涼に宜しく觀雪に適し四時總て宜しからざるなしと雖も櫻花の時を以て第一とし紅葉の候之に亞ぐ大堰川は清瀧より流れて下は桂の東を経て桂川となり鳥羽を経て淀に至るものなり渡月橋は川の北岸より南岸法輪寺の山下に達するの橋にして長虹亦山水の韻致を加ふ千鳥ヶ淵は橋の

上流三丁許に在り戸難瀬瀧は櫟谷いちたにの西に在り瀑上淺黄櫻の巨木あり又た山上十四五丁の處に嵐山城址あり夢窓國師の坐禪石亦同山上に存せり大悲閣は山の西腹に在り惠心僧都作の千手觀音を安す角倉了意の碑あり其銘は林羅山の撰する所にして了意は保津川はらづを浚鑿しゆんさくせし人なり嵐山温泉は大悲閣の西北麓に在り大堰川に舟を浮べて嵐山の風光を賞するものは此邊を限とすそれより上流は保津川の急流たり而して保津川の奇勝きしやうを探らんと欲するものは丹波龜岡三條大橋に赴き同所より舟を藏ひして之を下る可し奇岩怪石の間巧に舟を行るの妙致其快絶いふ可らざるものあり然れども初夏新緑の候を以て第一とす兩岸の蹠蹠さつさつ繚亂紅れうらんこうを漲みらし青山綠樹の間に杜鵑けんちの血を滴したらす等更に一段の趣味を加ふるなり

車折神社

門前に車折石あり

太秦廣隆寺

推古帝十一年聖德太子其侍臣秦川勝に命じて建立せ

しめられたる有名の古刹なり始め峰岡寺と號せり上宮王院には太子三十三歳手刻の像を安す着御の衣冠は御年忌若しくは破損の時は朝廷より新調あり今の衣冠は明治二年千二百五十年忌に際し今上陛下より御贈進になりたるものなりと桂宮院は八角堂にして奥の院と稱す太子自から土木を搬はび經營し給へる宮殿にして楓野宮といひしが後ち改めて梵宮とし太子手刻の如意輪觀音を本尊とす又太子手刻の十六歳肖像并に隋煬帝より獻せし處の阿彌陀如來を安置し千二百九十餘年前の建物なり講堂は弘仁九年、久安六年の兩度炎上す今の伽藍は保元年中藤原信賴勅を奉じ建立せし所にして七百廿六年前の建物なり地藏堂の本尊を埋木地藏といふ弘法大師の作なり假金堂は本尊藥師佛は向日明神の神作なりと傳へ新

羅國王獻納の彌勒佛と百濟國王獻納の如意輪觀音を安ず其他太秦殿秦川勝の像漢魏吳織女を合祀す樓門等あり當寺最も什寶に富み其重なるものを擧れば巨勢金剛筆の十二天像十二幅、秦致實筆の聖德太子繪傳、陸信忠筆の十王地藏、印度毘須羯磨作の毘沙門天、芝琳賢筆の地藏厨子扉の繪、土佐行長筆の能惠法師繪傳、足利義輝筆の十七條憲法、聖德太子の軍配扇等其他一々枚舉に違あらず信仰家美術家好古家たるもの之を參觀せば其益する所少々ならざる可し毎年十月十二日世に太秦の牛祭といひ有名なる祭典あり又鐘樓の北に伊佐羅井羅井あり源泉滾々として如何なる水旱にも増減あることなく俗に太子一夜に鑿ち給ふ所なりと傳へり太子堂の前に石燈籠あり石燈籠の根元にして世に之を太秦形と唱へ石工の摸形とする所なり

木島神社 俗に元糺といふ是れなり

西南部

梅宮松尾より西の丘を経て男山に至り久世鳥羽より竹田を伏見に至る

長福寺 禪宗、東梅津東梅津に在り當寺始め天台宗に屬せしが梅津左衛門清景なるもの月林和尚を尊信す時に當寺を領せり故に和尚に寄附して禪寺とせり和尚は曾て大元國たいげんこくに渡航し文宗皇帝より佛慧智鑑大師の敕號を受け滅後七年後村上帝より普光大幢國師の號を受けたり花園帝の塔所あり別傳院又は大寶輪と號す宸影の畫圖あり其蹟は帝の宸翰なり

梅宮神社 官幣中社、西梅津西梅津に在り祭神は木花開耶姬このはさきやひめ(酒解神)大若子神、小若子神、酒解子神さかどけこの四座とす孝謙帝の天平寶字年中此地に祭り帝基守護鎮守の爲めにすと昔檀林皇后酒解二座の神に祈りて仁明帝の降誕ありたりと今も婦人の産月うみつきには必らず當社の砂

を取りて襟帯に佩び平産を祈るは此遺風なりと

松尾神社

官幣大社、祭神は大山咋神市杵島姫の二座なり四條通より西二里に在り和銅二年賀茂より遷し大寶元年其神殿を創建す洛西第一の大社にして攝末社多く山上山下に散布せり世に造酒の神として酒造家の尊信する所なり祭禮は毎年五月にて神興七基西七條の御旅所より桂川を舟渡す是れ仁明帝承和五年に始まる古式なり正殿の西十丁許を別雷の峯といふ巨岩あり此處は當社の神靈始めて降臨せし地なりといふ

月讀社

松尾七社の一にて本殿の南二丁許に在り當社は松尾鎮座

以前の社なりと仁壽三年神託により今の地に移せり痘瘡の神なり明智坊の像 松尾の北一丁に在り明智坊は山門の碩徳或時諍論の爲め此邊に塾居し臨終の時其弟子に語り怨を酬はる爲め像を造り

て山に向はしめたりと傳ふ

西芳寺

禪宗、松室村に在り僧行基の開基にて真如親王平城帝の太子諸宮を奉

て少門となりて唐に往き羅越國に至り歸す 久しく此に住せられたるとあり爾后五百年夢窓

國師檀越の勤請により之に居り西方寺を改めて西芳精舎となせり

別に小庵を立て指東庵といふ方丈の庭は夢窓國師の作る所なり

淨住寺 禪宗、葉室山下に在り開基不詳中興は眞言の僧興聖なり

光嚴帝の御宇兵燹の爲め亡滅し斷絶二百餘歳に及びしが元祿年間

鐵牛和尚之を再建せり本尊如意輪觀音は天竺佛にて鐵牛和尚感得

の本尊なり

桂離宮

桂川の西岸桂村に在り

西山御坊

久遠寺といふ川島村に在り本願寺派の別院なり

大福寺

大枝坂山城丹波の界にして大枝山又大江山といひ丹波街道なりに在り本尊の地藏

は世に子安地藏といひ戀心僧都の作なり是れより西半丁に酒香童子の首塚あり

大原野神社 官幣大社、京都より凡三里、祭神は奈良の春日社と同躰にて祭神は武甕槌命、經津主之命、天津兒屋根命、姫大神の四座を祭る仁明帝の御宇奈良三笠山より勸請し平安城守護神と定め給へり例祭は二月八日なり

勝持寺 天台宗、春日社の二の鳥居西山下に在り此山元來櫻樹多し故に花の寺と稱す開基は役行者にて始め大原寺と號せり中興は佛陀上人文徳帝上人に歸依せられて伽藍を造營あり爾後代々勸願所となれり本尊藥師佛は傳教大師一刀三禮の作、右壇に安ずる不動は役行者の刻む所なり方丈の地藏は傳教大師の作、弘法大師作の石不動は堂前の洞内に安せり其他門には金剛力士を安し阿の像

は運慶、呼の像は湛慶の作なり此に掲ぐる勝持寺の額は小野道風の筆なり昔足利尊氏八幡山崎の合戦に近傍の寺社に就き祈願する所ありしに當寺の住僧一竿の竹を伐りて旗竿となし寺號を記したる勝持の二字大に尊氏を悦ばせ足利家代々の將軍の歸依厚く當寺を祈願所とせり役行者岩窟、西行庵跡、西行櫻、冨野沼、玄寶石、長嘯子天哉翁閑居地等の名蹟あり

長岡の舊都 桓武帝の舊都長岡といふは今の大原野神社の東南より東は向日神社の丘を限り西は山を限り南は山崎の東北に至るまでを稱するならんといふ大原野神社一の鳥居より二丁許に芝生地あり土人之を御所屋敷といふ按ずるに帝城の舊跡ならんか

西岩藏金藏寺 天台宗、西岩倉に在り本尊十一面觀音は長岡明神の神作なりと傳ふ本堂の西南二丁岩藏の瀧あり水流三段上下に分

る一の瀧、二の瀧、三の瀧といふ西岩藏の因縁は北岩藏に同じ
 西山三鈷寺 天台眞言律浄土四宗兼學、岩藏の西南廿四五丁に在
 り當山に三峰あり形三鈷に類するを以て三鈷寺と號す本の號は往
 生院なりと開基は源算上人にして觀性法橋、慈鎮和尚も之に住し
 中興は善惠上人なり都鄙の道俗之を呼で西山上人といふ本寺と子
 坊の二に分る本寺は往生院といひ子坊を華臺寺といふ華臺寺は善
 惠上人の塔所にして其法弟宇都宮頼綱入道遵生の再建なり荒廢し
 て今は一草庵を存するのみ往生院は華臺寺の上方に在りて西山上
 人が慈鎮和尚の附囑を受けて眞俗二門を興隆せられたる處なり佛
 眼の曼陀羅は日東無二の靈寶にて觀性法橋の筆なり中央輪の内に
 佛眼の像眞向に坐し周邊二十四葉の内に皆佛像あり四面に向へり
 又四隅及周邊に像あり共に四十七躰なり其他方丈に安する抱止の

如來あり關伽井は源美和尚の設る處、佛殿後の古藤は慈鎮和尚手
 栽のものなりといふ

西山善峰寺 天台宗、三鈷寺の西南に在り順路は小鹽里の上せしほのまへに在
 り七曲、阿知坂等を経て十二丁樓門に至るべし路傍に源算上人の
 坐禪石あり源算上人の開基にして樓門の金剛力士は運慶の作、本
 尊千手觀音は弘仁法師の作にて草堂本尊の餘材を以て作れる所な
 りといふ寺域凡三萬坪昔時は五十餘坊あり寺門繁昌したれど中世
 以降衰退して唯七坊を存するのみ

小鹽山十輪寺 天台宗、善峰寺の西南五六丁に在り本尊地藏菩薩
 は染殿皇后が平産の爲め造立し玉ふ所なり佛殿の西三十丁に鹽竈
 の遺跡あり在原業平奥州鹽竈の景色を愛し遠く難波の海水を取り
 て燒かしむる所なりと傳ふ

粟生光明寺

浄土宗西山派の本山にして報國山光明寺と稱し念佛

三昧院と號す粟生野に在り本堂に安置する所の本尊は圓光大師の坐像にして世に之を張籠の御影といふ法然上人四國左遷の時母儀の消息を以て自ら作れる本尊なり阿彌陀堂の本尊は惠心僧都の作にして江州堅田浮御堂千躰佛中の中尊にして熊谷蓮生坊感得して回國の日常に負ふて暫も身を離したるとなかりしが晩年に及び此地に草庵を構ひ安置する所なり法然上人廟は本堂の後山に在り蓮生坊塔亦其傍に在り阿彌陀堂に石棺あり上人葬送の棺なりと方丈に御鉢の釋迦佛立像四尺を安す靈驗無双と稱せり抑も當寺の開祖は熊谷入道蓮生法師にして建久九年の草創なり光明寺の號は四條帝の勅號にして當寺が法然上人の廟所となりたる事は上人滅後山徒の嫉念より上人の墳墓を破却せんとするの議あるにぞ上人の徒弟は

夜に入て密に其石棺を穿出し并に上人所持の影像を添て太秦の來迎房に送りしが翌安貞二年正月二十五日上人十七回忌に當れるを以て茶毘の法を行ふ可しとて太秦より石棺を粟生野に遷し棺蓋を開きしに面貌活るが如し同所の山腹に於て之を茶毘し舍利を收め塔を作り廟堂を立て、永く浄土宗の宗廟とせり

長法寺 天台宗、光明寺の西南二丁餘に在り開基は千觀法師なり

什寶に唐筆の涅槃像あり絹地にして堅七尺横四尺五六寸

奥海印寺 眞言宗、長法寺の西南七八丁なり寂照院と號す開基は

道雄僧都弘法大師の高弟にして嵯峨帝の詔勅により建立せり

楊谷觀音 浄土宗、奥海印寺の西南廿五丁なり本尊は千手觀音に

て白河帝の御宇水觀上人の創建せし所なり楊柳瀧、楊柳水、獨鈷水等の名蹟あり信者の賽するもの多し殊に眼病に罹るもの之に祈

れば靈驗著るしとて遠近より參籠するもの跡を絶つとなし

乙訓寺 眞言宗、推古帝の勅願所にて聖德太子の開基なり其後弘

法大師來りて眞言を修す後又寛平法皇住み給へり故に法皇寺と號

せり本尊は弘法大師の像なり此寺往古は寺域廣大にして佛閣備は

れりといふ

向日神社 向日町に鎮座せり祭神は鷓茅羽尊不合尊なり華表の額

は小野道風の筆なりといふ

眞經寺 日蓮宗、向日町に在り初め眞言宗なりしが日像上人法華

弘通の爲め所々の巷に說法せしに諸宗の輩怒て都より追却すると

三度に至る上人西國に赴かんと向日の里を過けるに明神の前にて

鳩飛來りて衣の裾を喰ふ上人感信し此に止まり路頭に出で、説教

せり眞言の像實賢等法問すると三晝夜竟に信伏して弟子となり是

より同宗となる當寺に上人の法華曼陀羅及日蓮日朗の畫圖を藏す

歸海印寺 眞言宗、山崎の東北に在り平家の世平判官泰頼少將成

常流罪せられ島に於て歸洛を祈り遂に感應を得て建立する所なり

と

長岡天満宮 祭神は菅公、向日町の南に在り寛平法皇の侍臣祐房

當地に住す菅公左遷の時此地に憩ひ給ひしに其地に紫色石あり公

之を愛し給へり其後神位を得給ふ時其因縁を以て此地に勸請し御

腰掛の石と稱せりと其石今は亡し境内の風光佳絶にして社頭に碧

池あり池邊には梅、櫻、楓、躑躅を植ゆ殊に躑躅の候遊人多し

天王山 山崎の北に在り有名なる古戰場なり

寶寺 眞言宗、天王山の半腹に在り聖武帝の勅願により僧行基の

開基なり本尊十一面觀音は立像六尺七寸聖武帝と行基の兩作なり

と坐像三尺六七の賓頭留びんづまは行基の作にて古色蒼然無比の靈物なり小野道風筆の額あり又打出うちでの鎚つちあり當寺の什寶とす當寺は淀川を隔てて八幡山はちまんざんに對峙し形勢雄偉風光絶佳なり

千利休せんりきゅうの茶亭 離宮八幡の東に在り利休閑居の地なり袖摺松そでずりまつあり

離宮八幡宮 天王山の麓に在り祭神は應神天皇なり貞觀二年の創建なりしが明治維新の兵燹に罹り今は假宮かりみやなり

男山神社おとやまじんじゃ 官幣大社、世に之を石清水八幡いししみづはちまんといふ祭神は應神帝、神功皇后、玉依姬たまよりひめ神武帝かみみかみのにして男山鳩ヶ嶺に鎮座せり當社は貞觀

二年六月十五日和州大安寺の沙門行教なるもの宇佐八幡うさはちまんに參籠して神託を蒙り奏請して勅許を得此地に神殿を造營して之を勸請し奉れるなり山麓なる一の鳥居より二の鳥居、三の鳥居を経て神殿に至るの間名勝舊蹟頗る多し上下高良社、耳語橋、太神宮遙拜所、

景清塚けいせいづか 景清源賴朝けいせいげんらいちゆうを頼むたる舊跡 石清水、楠公手栽のぶのての楠木、神前の橋、影向かげむかひの櫻等あり攝社せつしやには若宮、若宮殿、水若宮、住吉社、狩野社等あり維

新以前は兩部に屬し寺院の所管なりしを以て山中佛殿僧坊多し一の門を経て二の門に至れば前に段階だんかひあり門は唐破風にして左右に回廊あり神殿及拜殿を繞れり神殿は又別に木造の瑞籬みづかきを以て之を圍み垣の腰より以上は組格子くみかかしにて花鳥の彫物あり神殿、玉垣、回廊皆朱を以て彩り壯麗實に言語に絶せり例祭は八月十五日なり又た一月十五日より十九日まで八幡參りはちまんまいと稱し京坂各地の貴賤境内に

群集す

淀よど 京都を距る三十三丁にして稻葉氏の舊城下なり淀城は有名なる城なりしが維新廢城に歸し彼の人々に膾炙する淀の河瀬かほせの水車みづぐるまも右の廢城と共に斷絶せり又淀姫神社は淀町の北岸水垂みづたれといふ所

に在り

光福寺 上久世に在り一名藏王堂といふ天台眞言律浄土の四宗兼
學なり安ずる所の藏王權現は役行者えんのかうりやの作にて天曆九年淨藏じやうざう貴所の
開基なり

鷲尾堂 天台宗、大藪村に在り傳教大師の開基なり本尊藥師佛は
鷲の背に乘れり鷲は傳教大師の作る所なり

福田寺 眞言宗、下久世に在り傳へいふ僧行基此地に居在の時靈
告により靈木を得て本尊地藏菩薩を刻し造立せらるゝ所なり又
梁武帝りやう作の摩耶夫人まやふじんの赤旂檀立像あり弘法大師入唐將來の品なり
と又龍神の像あり奇異絶妙の相好なり昔俊惠法師雨を祈りし時井
中より現出せりと傳ふ

吉祥院 鳥羽街道の西七八丁に在り菅家普代の領地にて菅公の別

業あり延暦年中菅公の祖清公きよきみ卿遣唐使として海上風波に逢ふ弘法
大師同船に在り吉祥天女の法を修して平安を祈り効驗あり歸朝の
後ち吉祥天女を造立す清公卿此地に堂宇を建立し之を安置せり
實相寺 日蓮宗、上鳥羽かみとばに在り境内に俳諧師松永貞徳の墓あり
懸塚けんづか 下鳥羽に在り遠藤盛遠もりとほ誤つて袈裟御前けさごぜんを殺し其首を葬る所
なりと又云ふ池に鯉あり住むと久し屢ば婦女子を惱ます故に捕て
之を殺せり然れども其靈執を怖れて池底に納め塚を作れるなりと
安樂壽院あんらくじゆいん 眞言宗、竹田街道たけだかいちだうに在り當院は初め鳥羽上皇離宮の地
なりしを保安四年改めて寺となし五層の寶塔を造り上皇釋門に入
て密乗を尊信し給へり本堂は始め五重塔なり今尙本御塔もとみかたうと號せり
本尊阿彌陀佛は胸に卍字あり卍字の阿彌陀といふ堂下に石櫃あり
上皇宸筆及顯密の衆僧に五部の大乘經を一字一石に書しめ納め給

へり又御遺詔により上皇の御遺骸を塔下に納め奉れりといふ新御塔は古の五重塔なり後世堂に改められたれども尙舊號を用ゆ本尊十一面觀音は弘法大師の作脇壇に上皇及美福門院の宸影を納む

城南神社 神功皇后三韓征伐の時勸請し玉ふ所にして祭神は國常立尊なり桓武帝平安奠都の際鎮護の爲め伊勢石清水加茂松尾平野稻荷春日の七社を合祀し王城の南方なるを以て城南神社と名く即ち桓武帝宸筆の神名を當社の神躰とす

北向不動院 眞言宗、同所に在り本尊不動明王は興教大師の作なり鳥羽上皇の本願にて建立せり

法傳寺 淨土宗、下鳥羽に在り開基は僧行基にして中興は圓知上人知恩院第一世なり上人辭職の後閑居の地を求め靈告により此地を感得し專念の道場となせりといふ

寶塔寺 日蓮宗、稻荷山の南に在り當寺は初め極樂寺と號せり延

慶年中日像上人法華弘通の爲め京都に來られしも受法の機熟せざりしを以て西國に赴かんと向日町に至られし時當寺の良桂律師相遇ふて法問すると三晝夜律師遂に隨從して永く宗旨を改め極樂寺を以て法華道場とせり御塔は本堂の北に在り此塔は日像上人一宗弘通の爲め法華の首題を書し石塔婆せきたつばに彫りて京都の七口ななぐちに立てらる是れ其一なり後世此塔の下に日蓮、日朗兩師の遺骨を收む故に一宗之を御塔みかたといふ日像上人は康永元年京都の妙題寺に遷化し當寺に火葬せり境内に轉法輪石、虎石等あり

桓武天皇陵 稻荷山の南栢原に在り世に之を栢原御陵といふ

藤森神社 稻荷を距る十丁餘、祭神は舍人親王、早良親王、伊豫親王の三座とす本殿の東に旗塚あり神功皇后三韓征伐して凱旋の

後藤及兵器を埋められたるなりと又後花園帝の御宇將軍義教の命により稻荷社を山上三の峰より今の地に遷座するに至りて當社を今の藤森の地に移せるなりといふ

墨染

藤の森の南一丁古は此地一面の郊原にして墨染の櫻あり古今集上野岑雄の歌に「深草の野邊の櫻も心あらば此春ばかり墨染に咲け」と此歌は昭宣公藤原基經薨去の時哀傷に堪ずして彼櫻樹に向て之を詠せしに不思議にも服衣の色に咲しとなり是れより此地を墨染と名けしとぞ墨染寺あり日蓮宗にして日秀上人の再興なり墨染櫻は其庭前に在り後人の植ゑしものなるべし當寺に豐太閤豊太閤衣冠の畫影あり長谷川等伯の筆にて豐公筆の和歌あり

欣淨寺

淨土宗、墨染寺の南に在り本尊阿彌陀佛は唐佛にて閻浮檀金の坐像なり此像印相尋常に異なり釋迦阿彌陀大日三尊合躰なり

り傳云ふ此地は往昔深草少將の宅地にして堂前の井を少將井といひ又墨染の井といふ

伏見町

京都より二里半一條の市街を通じて相接續せり南に淀川を帯び毎日數回大阪間を航行する涼船會社あり殊に京都との間は水には高瀬川及疏水工事の鴨川運河あり陸には電氣鐵道の布設せらるゝあり市坊二百六十有餘戸數四千餘人口一萬七千にして市街頗る繁昌せり工兵屯營其他の官衙、銀行、諸會社あり山城第二の都會たり此地は昔時伏見野と稱し寂寞たる村落に過ぎざりしが豊臣秀吉伏見城を築てより始めて繁昌なる都會となり以て今日あるを致せり伏見城址は東方伏見山に在り今はたゞ城山の名を存するのみ桃山御殿の址は桃樹數百株花時來遊するもの多し山陰に梅溪と稱するあり梅花の勝地たり御香宮は伏見山の西三丁に在り神功

皇后を祭れり觀月橋は町の東南隅に在りて淀川に架するの橋なり俗に之を豊後橋といふ觀月の名地たり橋の北詰に月橋寺あり

巨椋池 伏見豊後橋の南五十丁、俗に大池といふ周廻四里十一丁

昔時は淀川の流水之に瀉き灣形をなしたるを以て巨椋の入江ともいへりとぞ豊太閤の時東邊を遮斷して堤防を築き大和街道を中央に通じたるなりと池中に蓮花多く又葦菜を産す

榎本八幡 巨椋より里餘天治年中村民等靈夢を感じて男山八幡宮

の靈を勧誘し榎本八幡と號したり往古一株の榎樹あり樹葉繁茂之を遠望すれば青山の如し其樹下に勸請したる故に名くといふ

六地藏 大龜谷の東南關山の麓に在り堂の形は六角にして本尊地

藏菩薩は小野篁の作なり傳云ふ文徳帝の御宇小野篁一木を以て手から六躰の地藏を刻し六道能化の姿を造立す詔を下し此地に佛閣

を建立し之を安置し給ふ是故に六地藏といふ保元二年平清盛其五

躰を山科、御菩薩池、鳥羽、常盤、桂即ち帝都の路口に移し弘く

道俗を結縁せしむ而して其造營せる堂の形は皆六角なり今尙存す

る所は當寺及山科、常盤なり餘は改造したりといふ

東南部

山科醍醐宇治を経て笠置山に至る

安祥寺 眞言宗、山科(大津街道)の右に在り染殿皇后の御願にし

て貞觀元年建立せり往時は著名なる寺なり地藏堂に安する延命地

藏は惠雲僧都が唐土より將來の靈像なり

毘沙門堂門跡 天台宗、安祥寺の東北に在り開基は傳教大師なり

本尊毘沙門天は初め南都に安す中古平安城今出川の上に移り應仁の兵火に焼失せりと今塔壇といふは當寺の塔ありし所なりと天台

宗の巨刹なり

諸羽神社

毘沙門堂の東に在り祭神は天津見根命、天太玉命の二

座なり當社を四の宮と號するは山科に二三四の宮あり當社は其

四なるが故なりと

牛尾山法嚴寺

清水の奥院といふ古は伽藍巍々たりしといふ大津

街道追分より二十町牛尾山上に在り本尊千手觀音は天智帝、脇士

不動明王毘沙門天は弘法大師の作なりといふ方丈の左に音羽の瀧

あり

元慶寺

天台宗、應徳寺又は東山寺といふ北花山村に在り本尊藥

師佛は或はいふ僧正遍照の作なりと僧正遍照自作の像は右の壇上

に安す當寺は陽成帝の勅願により貞觀十一年に建立する所なり花

山帝當寺に入り祝髪し給ひ入覺と號し花山院と申し奉れり

田村將軍塚

栗栖野に在り嵯峨帝弘仁二年五月廿三日薨す帝爲め

に朝を廢せらるゝと一日同二十七日此地に葬る勅して甲冑兵杖劔

鉾弓箭精鹽を調へ合葬せしめ王城に向ふて之を窆せしむ勅使監臨

して事を行はしめらる蓋し國家擁護の爲めなりといふ

大石良雄の舊趾

赤穂義士大石内藏之助假居の舊趾は山科巖屋明

神の鳥居前に在り良雄の事蹟は夙に人口に膾炙すれば茲に贅せず

兩本願寺別院

俗に之を山科御坊といふ二ヶ所あり一は本願寺派

の別院にして舞樂寺といひ一は大谷派の別院にして長福寺といふ

共に北花山の東南に在り文明年間蓮如上人此地に本願寺を建てし

を佐々木定頼、三井寺僧徒の爲め焼かれて廢滅したるの舊地なり

舞樂寺の門前に蓮如上人の塚あり舞樂寺の側に實如上人の塚あり

勸修寺門跡

華嚴眞言兩宗兼學、栗栖野の南に在り當所は延喜帝

の外祖父宮路彌増いみよの領所なりしが帝の母后胤子の本願により延喜四年に建立せり開基は範俊僧正はんしゆんそうせうにて本尊千手観音は同帝御等身の像なりといふ

隨心院門跡ずいしんいんもんせき

真言宗、勸修寺の東三丁に在り開基は仁海僧正なり

往時は攝家の枝葉當寺に住職たるを例とせり當寺の什寶中小野小町作の地藏尊あり當時小町の容色に眷戀し書を寄せて情思を通ずるもの多し小町皆之を肯ぜずかみん後ち自から其罪障の深きを慮かり其艶書を集めて地藏尊を張貫に製したるものなりと

醍醐寺たいご

真言宗、醍醐村に在り開基は理源大師にして延喜四年の

創立にて醍醐、村上、朱雀三帝の勅願所なり伽藍は山上及山麓にあり上醍醐、下醍醐の二に分つ山門は山麓に在り運慶作の金剛力士を安す之を下醍醐といふ本堂は醍醐帝の御遠忌に當り豊太閤攝

州萬願寺の一堂を移して建立する所なり本尊藥師佛を安す五重の塔あり本尊は畫像廿一躰心柱に現はす佛言に所謂説相の曼陀羅是れなり開山堂あり弘法、理源兩大師の像を安置す上醍醐は麓より登ると凡三十七丁毎丁石標を立て上に梵字を書す観音堂は石階九十段本尊准胝觀音じゆんていを安す五大堂は朝敵降伏の爲め造營せられし所なり如意輪堂の本尊觀音は理源大師の作祖師堂の中央は理源大師北は觀賢僧正南は弘法大師を安す同所に三尺の劔けんと惡蛇の鱗うろことを收む劔は理源大師の作和州大宮の惡蛇を害せしものなり鱗は其惡蛇の鱗なり藥師堂の本尊藥師佛は現惠僧都の作病者あれば金銀の箔を持來りて此像に貼るに靈應ありと傳へり花見山はなみやまは上醍醐に至らんとする左傍に在り其地平坦なり豊太閤毎春遊宴の地なり文祿年中醍醐の花見といふは此所なり

三寶院門跡

醍醐寺山門外に在り理源大師の住房なりしといふ本殿は豊太閤賞花の舊跡にして其他の殿堂何れも壯麗にして高雅林泉は亦殊に珍卉奇石を集め布置其妙趣を盡せり藤戸の石は備前見島浦にありし岩の浮州にて聚樂邸の庭にありしを豊公之を當寺に移したるなりと

田藝の地藏

上醍醐如意輪堂の南東二十丁許南禪院に安置す昔農夫信心して靈驗あり故に號すと

一言寺

眞言宗、庄口山下に在り少納言信西の女阿波内侍の建立黄檗山萬福寺、黄檗宗の總本山にして宇治に在り開基は隱元和尙なり和尙は明の福州の人承應三年始めて來朝し萬治二年徳川家光此地を寄進し寛文元年九月より伽藍を草創し精舎の經營多くは彼土の風を摸し名けて黄檗といふ同十三年後水尾帝より大光普照國

師の號を賜ふ寺域七萬七千三百餘坪漢門、山門、天王殿、大雄寶殿、法堂、鼓樓、祖師堂、撰佛場、鐘樓、伽藍堂、禪脫堂、牌堂、浴室、開山堂、壽藏、舍利殿、華嚴室、藏經印板の倉等堂宇伽藍の莊嚴なること多く其比を見ざる城南第一の巨刹なり

日野藥師

眞言宗、一言寺の南に在り日野資業卿の本願にて建立せり乳に乏きもの之に祈れば靈驗ありとて信ずるもの多し

三室戸寺

天台宗、黄檗の南に在り開基は智證大師にして中興は隆明利尙なり當寺は光仁帝の勅願にして本尊千手觀音は閻浮檀金像にて宇治山の東岩淵の水底より出現す西國十番の札所なり

喜撰法縁

三室戸の東に在り喜撰法師が住みける宇治山とは此山なり山巔眺望爽快

宇治

京都より四里餘伏見より一里廿八丁、宇治川に沿ふて旅店

料理屋の瀟洒清潔なるもの多く翠巒すいらんに對し清流せいりゅうに枕のぞみ四時の風光に富めりと雖も新緑の候螢火へんぷの時を以て最も愛賞あいしょうに可なるの時とす

宇治橋

孝德帝の大化二年道昭和尙始めて之を架せり是れ日本に

於て架橋の嚆矢こほしなり延長八十三間餘三の間と稱するは橋の中の別稱なり南の欄干一間許張出す所をいふ此所の下流は水清白みづせいはくにして輕し茶の水に適せりといふ橋の東詰に通圓が茶店あり

橋寺

律宗、道昭和尙の開基にて宇治橋造營の時開く所なり

橋姫社

橋南に在り祭神は瀬織津姫なり

平等院鳳凰堂

天台宗、橋南二丁許宇治關白賴通の草創なり此地初

めは河原左大臣融の別館なりしが後ち陽成院行宮やうじやうを此地に設け宇治院と號す宇多、朱雀二帝も之を離宮とし給へたるとあり其後六

條左大臣雅信の別業なりしが長徳年中御堂關白道長求得て山莊と

なし永承七年其子息宇治關白賴通之を寺となし平等院と號せり佛殿及觀音堂あり佛殿は有名なる鳳凰堂にして宇治關白賴通の建立也堂の形鳳凰の兩翼を伸たるに似たり其棟上に雌雄の鳳凰銅造長三尺許を造て置く風に順したがふて舞ふ屋根二重左右に開あり佛殿より隔つと

四間許其中間に廊を通じ其床佛殿第二の軒に双べり是即ち兩翼に擬するなりと本尊は阿彌陀佛定朝の作、堂内左右の壁は板を以て作り長押ながしの上に二十五菩薩の像、雲に乗のずるを繫つなぐ立像は一尺四五寸坐像は尺餘なり作者不詳、其下壁及三方の扉とがらに淨土九品の説相を畫く長者たみち爲成の筆、同じく上に色紙形あり觀經の文を書す中納言俊房の筆なり其他莊嚴美麗にして天蓋佛壇等に硨瑠璃せりゆの珠玉を以て飾り鑲ちりばむる所の箔の光色實に稀有にして蓋も亦絶倫なり

此堂の建築は内外美術家の嘆賞する所にして其摸形を北米市俄古の世界大博覽會に出品してより其名殊に噴々たり観音堂に安ずる十一面觀音は釣殿の觀音と稱す扇の芝は源三位頼政自害の所にして樓門の内在り又方丈に頼政の甲冑及畫像あり

縣社

平等院後門の前なる縣の森に在り祭神は木花開耶姫命なり

例祭は六月五日にして俗に之を「アナタ」祭と稱し京阪其他より參詣するもの實に夥たしく社頭夜を徹して喧囂雜沓せり

榎島

宇治の東南十丁許、境地四面渺々として東に宇治川あり月を愛するに好し古人賞して釣月と號す伏見の指月と好一双なり

眞言院

眞言宗、宇治より南東二里開基は弘法大師なり本尊藥師佛は運慶の作、什寶に大師所持の錫杖あり

禪定寺

禪宗、眞言院の東北二十四五丁平宗上人の開基にして關

白忠實の創建にて南都東大寺に屬し華嚴宗にて眞言宗を兼しが中

古月舟和尚再興して曹洞宗となれり

蟹滿寺

眞言宗、本尊釋迦佛は紫銅を以て造る坐像八尺靈驗新たりと傳ふ相樂郡棚倉村に在り

北吉野神童寺

眞言宗、本尊藏王權現は役行者の作なり又行者の

像

あり洞中に安ず當寺の開基及年月不詳案するに和州吉野

山を移し造れるなり又云ふ和州大峯に毒蛇あり山伏の入峰斷絶すると久し其時笠置山を以て大峰に比し當山を開き吉野に進すと

妙勝禪寺

禪宗、綴喜郡薪村に在り開基は大應國師中興は一休和

尚なり方丈を酬恩庵と號す和尚の名くる所なり一休和尚の影あり椅子に坐し竹篋を持す長三尺五六寸許和尚存生の日工に命じて好み作らしむる所にして鬚髮は和尚の生身を以てす一休の塔あり石

塔を安し遺骸を藏む和尚所持の杖笠此所にあり

段々其の不動 本尊不動は三尺許の立像にて弘法大師の作なり靈

驗新たなりとて其名高し

哀堂 あはれどう 俗にアハン堂といふ本尊阿彌陀佛は平重衡の引導佛なり哀

堂といふは重衡此地に誅せられたる故なり

海修山寺 かいじゆせんじ 眞言宗、佛生寺村の山上に在り境内は四面皆山にして

古木芥茹晝猶暗し聖武帝の勅願所なり開基は不詳解脱上人中興たり本堂に十一面觀音及地藏菩薩毘沙門天を安す共に自然出現の尊なりと堂内に法華普門品の説壇を畫けり三重塔に安する舍利は招提寺の鑑眞和尚が漢土より將來し聖武帝に獻する所なりと奥の院を變の間と號す夢の屏風と稱する屏風あり解脱上人の筆にて女人往生の體を畫けり

鷲峰山金胎寺 じゆほうせんこんたいじ 眞言宗、東和東村に在り開基は役小角えんのかどにて本尊彌

勒佛は行基の作なり二重多寶塔は伏見帝の建立にて開山堂には役行者の像を安す寶篋印塔は空鉢の峰に在り泰澄法師所持の鐵鉢を藏む抑も當寺を鷲峰と名くるは天竺靈鷲山に摸して經營したるに
よる又空鉢峰の頂上より晴天には近江の琵琶湖を望むべしといふ
百丈山大智寺 禪宗、湯舟村の奥に在り開基は大觀禪師なり山中
八景あり雄峰、洗耳洗、樵歌嶺、桂月峰、白雲岫、歸鳥林、坐禪
石、文珠巖等是れなり

笠置寺 かさぎでら 眞言宗、笠置山に在り本願は天武帝にて開基は不詳中興

は解脱上人なり當山を笠置と稱するは天武帝親王たりし日駿馬に
乗りて此山に獵す馬膝うまひざを巖の間に屈して動かす皇子三寶を禮し冥
助めいすけを乞ひ安寧を得ば此地に精舎しやうしやを建つ可しと誓ふ既にして馬進む

とを得たりひびき蘭笠を置いて後の證とす故に笠置といふとかや元弘年中後醍醐帝行宮を當山に定め給たるを以て古跡に富めり行宮の舊址は本丸、二の丸はんなまると名けて南北に双ふ其中間溝の跡あり峰峙ちて溪深く樹木繁茂して巉巖崔嵬たり此に遊ぶもの轉た往事の感に堪す低徊去るに忍びざるものあらん

天橋立

丹後國與謝郡の灣中わんちゆうに在り日本三勝の一にして一條の長洲與謝灣の中央に斗出し西北より斜めに東南に延長すること二十七町餘一帯の翠松蒼鬱として其上に駢列し與謝の海上に浮て白砂と相映す風光明媚にして繪畫の形容尙ほ實見に若かず京都を去ること三十一里餘

社寺寶物一覽

京都の名山巨刹に富む之に藏する靈寶什器の如き世界有數の物固より少なしとせず而して一々之を掲載せんとするは本冊子の到底能くする所にあらずと雖も左に其著名なるものを抄記し以て讀者の一覽に供せんとす尙ほ往々漏脱の虞なきを期せず乞ふ幸ひに諒焉

○天性寺

中將姫筆阿彌陀如來、惠心僧都作地藏及彌陀、兆殿司筆白衣の觀音赤衣の釋迦、土佐光信筆涅槃像、筆者不詳當麻の縁起二幅

○本能寺

信長の所持品支那製の陣太鼓、蘭丸の鎗の穂、康頼筆寶物集、赤壁賦青貝の衝立、顔輝筆能化釋迦、瑞圖筆七言絕句

○妙滿寺

印度傳來釋迦座像及厨子入有髮石帶、定朝作人丸、傳教大師の筆蹟
紀州導成寺鐘、趙元雍筆山水人物、宋萬木筆荷葉水鳥

○萃堂

行圓上人遺物鹿の裘、鳥佛師作阿訶賀面、明代陶器製妙見尊

○廬山寺

菅公筆十一面觀音、巨勢金岡筆普賢菩薩、弘法大師筆愛染明王、張
思恭筆三尊佛、後陽成帝御肖像、後醍醐帝御肖像

○清淨華院

智證大師筆不動明王、七佛舍利塔、空也上人の叩金、宅麿筆釋迦三
尊、小康師等墨鸞、善導、道綽、懷感、小康五祖の畫像

○十念寺

一休和尚筆墨畫佛鬼軍の繪卷物

○阿彌陀寺

舟充背の彌陀如來、上品上生の彌陀如來、立像の彌陀如來

○天寧寺

更紗切百四十二枚繼合せ淺野隼人寄附の打敷

○上善寺

狩野正信筆冬夏の山水、九條輔實公筆辨財天十五童子

○御靈社

菅公自筆『心だに』の和歌、『湖州孫家造』の銘ある古鏡、菅公所持相
州廣道の刀劍、八所御靈の畫像、是善卿の畫像

○相國寺

兆殿司筆白衣觀音、米南宮筆墨畫の虎、陸信忠筆十六羅漢、唐明諸

名家の書畫十數點、水晶十三塔、異國通船の印鑑十三通、朝鮮分捕品松風鍛村雨鍛小狐鍛、宋板一切經、慈惠大師自筆の像、足利義持筆觀世音、小野篁筆地藏尊

○妙顯寺

趙子昂筆法華經七卷、元信筆文珠普賢二尊、兆殿司筆十六羅漢十六幅、顏輝筆文殊菩薩、呂紀筆双幅、歌仙及職人盡しの屏風

○妙覺寺

後醍醐帝宸筆、左甚五郎作雲龍、唐製古瓦硯、張英筆仙人集會、日蓮上人自作の肖像、元信筆涅槃像外數幅、揚月筆掛額の猫

○本法寺

徽宗帝筆鵝鴝、舜舉筆摩利支天外數幅、元信十六羅漢四幅、長谷川等伯筆涅槃像、光悅筆法華題目、啓書記筆寒山拾得

○興聖寺

吳道子筆都兜曼荼羅、舜舉筆荷葉一幅、同草花の圖

○報恩寺

豊太閤筆歲德神に遣はす文、經張の多寶塔、箱入千躰地藏、惠心僧都筆十五菩薩及彌陀の來迎、春日作箱枕淨土變相

○本隆寺

傳教大師筆法華玄論十卷、趙子昂筆中峰國師の像

○淨福寺

兆殿司筆釋迦八大菩薩及阿彌陀如來、羯鼓胴、四天王の像

○轉法輪寺

兆殿司筆涅槃像

○立本寺

紺紙金泥法華經寶塔の圖八幅、金剛筆不動地藏二尊、禪月筆羅漢

○神泉苑

元信筆平家物語の屏風一双、双身の毘沙門、金剛筆寶樓閣曼荼羅

○誓願寺

元信筆鯨波の屏風、牧溪筆十六羅漢、光信及友雪筆誓願寺縁起

○大雲院

散蓮華の硯、宋畫十六羅漢

○金蓮寺

後伏見後二條花園三帝詞書越前守行光畫一遍上人繪詞傳二十卷

○御影堂

白上立像善光寺彌陀三尊、敦盛の室清照姫畫扇子、厨子扉の毘沙門天、一遍上人繪縁起殘闕三卷、銅像一光三尊彌陀如來

○白毫寺

光信筆如意輪觀世音、古畫不動明王

○東本願寺

安阿彌作本尊阿彌陀如來、義經持尊木造觀世音、家康寄附成然房作見真大師木像、印度傳來鍍金如意輪觀音、覺如上人述見真大師傳四卷、春日作翁の面、仇英筆羅漢、惠心僧都筆來迎佛、春日基光筆觀經華座觀の圖、應舉筆蓬萊仙變の圖、定朝作彌陀如來

○西本願寺

正親町帝宸筆の勅書、後醍醐帝御所持の印籠、將軍綱光寄附吉光短刀、豐太閤の朱印及書翰、信長の血誓文及書翰、見真大師筆佛號一幅及致行信證六冊、牧溪筆達磨大師、見真大師自作の像、宅間法眼筆訶葉尊、武田信玄の書翰、古面十一個、能樂用黒船厚板、月輪殿

下筆上宮太子五廟勸進文、尊圓親王筆朗詠集二卷

○本國寺

金銅釋迦立像、張思恭筆天台大師及羅漢、書嘯阿耨光起一遍上人傳記繪卷物、光信筆廡の圖屏風、梨子地の辨當、蒔繪重箱

○壬生寺

常朝作本尊延命地藏尊、唐物藥師如來、壬生忠峰の硯、足利義政寄附鐔口、紫銅大燈籠及常香盤、稻荷住吉山王三神假面

○東寺

弘法大師將來唐憲宗帝山水屏風の片、五大尊像五幅、十二天像十二幅、弘法大師繪卷十二卷、七祖の像、後宇多帝筆弘法談義本尊、信實筆嵯峨帝御影、弘法大師筆風信帖、弘法大師將來唐物金剛盤舍利塔輪寶羯磨楔獨鈷三鈷五鈷五鈷鈴塗香華曼火舍利塔鈴寶珠鈴、伎

樂の面及器具、灌頂の水瓶、理源大師作千手觀音、四天王、興教大師筆草畫の不動明筆、其外名什數百點

○空也堂

釋迦彌陀の二尊

○因幡藥師

三國傳來藥師如來、興教大師作觀音不動二尊、藥師十二神將圖

○佛光寺

見真大師自作の像、慈覺大師作彌陀如來、惠心僧都筆彌陀如來

○六角堂

後冷泉帝御寄附佛舍利、智證大師作不動尊及二童子、見真大師自作の像、明惠上人作寶冠阿彌陀如來、青銅九龍耳附の花瓶

○東福寺

吳道子筆三尊佛、顧愷之筆維摩居士の像、兆殿司筆五百羅漢五十幅及豎三丈九尺横二丈六尺涅槃像、吳道子筆八相涅槃像、宋畫無準の像、閻立本筆釋迦三尊、子昂筆淵明畫傳、楊補筆墨梅、金岡筆瀧見觀音、黄金の寶塔、念佛禁止の制札、其他兆殿司の畫多し

○泉涌寺

宋周丹士筆三祖の像、古澗筆涅槃像大幅、唐製渡金舍利塔、玄宗皇帝筆扁額、俊芳律師筆開山眞蹟勸進疏、慈覺大師將來銅造鈴子運慶作如佛尼公の像、其他佛像畫圖多し

○智積院

長曆十四歳の筆瀧見觀世音、王摩詰筆浪岸の圖、永眞筆大威德明王及藥師十二神將、繙字妙音品、張思恭筆孔雀明王

○三十三間堂

康圓康清兩人作千手觀音仁王地藏尊脇立二十八部衆

○豊國神社

釜大工與二郎鑄造鐵の燈籠、桃山城門

○妙法院

豊太閤遺物の古鏡、朝鮮王より豊太閤に送りし朝鮮衣服八領、裳一枚、脚絆一双、沓一兩、岩佐又平睡の屏風、呂紀筆不動尊、順阿法師の碁、西行法師筆内裏歌合一卷、後白河帝御筆不動尊

○小松谷正林寺

土佐光弘畫藤本慶運詞書圓光大師傳記、金岡筆彌陀三尊

○清閑寺

小督局所持品料紙文庫及硯箱

○六波羅密寺

空也上人作十一面觀音、董其昌筆陳胥公題辭桃源の圖、小野篁作地藏尊、禪月筆十二天十二幅、古印梵字銅、清盛公木像

○建仁寺

雲谷等哲合掌筆達磨大師、高麗板一切經、載文進筆關山霽雪の圖、陸翰筆樹下仙人圖、劉俊筆群賢勝會の圖、馬麟筆山水、後小松帝宸翰、宋徽宗筆鷹の八幅對、傳教大師作藥師如來

○高臺寺

後陽成帝宸筆達磨大師、菅公自筆の像、朝鮮征伐軍艦と乗車の天井を用ひし開山堂の天井、朝鮮製鼈甲張卓子、豐太閤の陣羽織、文徵明筆西湖の圖、劉坦然筆琴棋の二幅、子昂の馬、古銅梵子の香爐、模枕、御靈屋厨子、兆殿司筆出山の釋迦、豐太閤書翰

○知恩院

土佐古將賢筆後白河法皇御肖像、廿五菩薩來迎の圖、小野篁筆地藏尊、惠心僧都筆觀經小經兩曼荼羅、四曲屏風、後伏見後二條兩帝宸筆土佐吉光壽勅修圓光大師行狀繪傳四十八卷、玄宗帝筆十六觀經、宋太宗帝筆大方廣佛華嚴經、善導大師自筆の像、一休和尚贊布袋の圖、秀衡持尊勢至菩薩、行基菩薩作十一面觀音、經張阿彌陀佛、惠心僧都作金色彌陀三尊、智證大師筆金身三尊、相阿彌筆維摩居士、其他宋元明代名家の墨蹟頗ぶる夥し

○粟田青蓮院

發生寂業筆文殊菩薩、元信筆岩打浪、紅衣釋迦如來立像

○八阪神社

應舉筆鶏の衝立、大雅堂筆關亭修禊の圖、笛、笙、箏、篳篥

○檀王法林寺

惠心僧都作阿彌陀如來、青海の曼荼羅、二段式腰架、古代釣鐘

○頂妙寺

宅間榮賀筆釋迦三尊、土佐光茂筆三十六歌仙帖、宗達の牛

○要法寺

朝鮮人合筆法華經、銅の原版、明黃炳中筆海棠に小鳥の圖、金銅透し彫法華經箱、堆朱の香合、南京花瓶、呂紀筆松竹に小禽の圖、

○妙傳寺

李龍眠筆魚籃觀音、兆殿司筆三尊佛、禪月大師筆羅漢

○南禪寺

徽宗帝筆山水二幅、足利義持筆十六羅漢、李龍眠筆聖相文殊、印度西金居士筆羅漢、馬公顯筆藥山李翺禪會圖、榮賀筆大明國師像、宋畫釋迦三尊、張思恭筆涅槃像、元信筆山水樓閣、三松筆山水漁舟、

大明國師法衣、銅の釣鐘、印度の法衣

○金地院

山王祭屏風一双、雪村筆山水、達磨大師の畫像

○永觀堂

中唐子夏筆赤衣釋迦如來と十大弟子、惠心僧都筆山越の阿彌陀如來、古畫藥師如來、同十界圖二幅、元信筆襖の畫十二枚、

○法然院

土佐光廣筆菅公の像、載文進筆布袋に唐子の幅、呂紀筆花鳥

○黒谷光明寺

惠心僧都筆山越彌陀三尊を中心とし左右地獄極樂の屏風畫、釋迦十六羅漢を彫刻せし大理石、小野篁筆十躰地藏、唐畫出海の文珠

○眞如堂

張思恭筆普賢菩薩、弘法大師筆不動明王及地藏尊、惠心僧都筆全身廿五菩薩、慈覺大師作本尊阿彌陀如來

○百萬遍

顏輝筆蝦蟆鉄拐二幅、十鉢阿彌陀如來、善導大師自筆の像、明畫十六羅漢十六幅、三尊佛内釋尊行基菩薩筆文殊普賢惠心僧都筆、惠心僧都筆當麻曼荼羅、日本古畫欣淨縁の曼荼羅

○銀閣寺

相阿彌筆山水、土佐光信筆渡唐天神、吳筠筆冬夏山水二幅

○金福寺

尾上釜かま、謝蕪村の文臺、俳席配の硯

○詩仙堂

石川丈山筆淳和法帖千字文十二景詩及遺物硯箱、竹如意、竹拂子樹

根の倚几、樹根置物、探幽筆三十六詩仙の板面

○圓光寺

家康公寄附趙子昂筆七言絶句八首八幅、同牛の畫、西金居士筆羅漢、家康公寄附木製活字板十萬程、張即之の大字

○曼珠院

趙昌筆百虫の圖、金岡筆山王十三神、智證大師筆黄色の不動尊、弘法大師筆大威徳明王、良尙親王筆楊貴妃及百菓圖、同筆酒吞童子繪卷物、薛佑筆百鴈の圖、筆築箱、中御門帝御製新六歌仙の帖

○奥山勝林寺

惠心僧都筆三尊來迎佛、證據の彌陀佛、張思恭筆釋迦三尊

○奥山三千坊

法橋了琢筆叡山全圖の屏風、惠心僧都筆彌陀廿五菩薩、如意輪觀音

座像、土佐光重筆見文珠、宅摩止筆一字金輪曼荼羅

○寂光院

聖德太子作本尊地藏尊、六萬躰の小地藏尊、阿波内侍張子像、小原御幸の記二冊、小原御幸の繪卷物一卷

○古知谷阿彌陀寺

彈誓上人自筆の像

○岩倉實相院

行基菩薩作智證大師像、銅製大雲寺古鐘

○鞍馬寺

黃門光國卿寄附飾附吉光太刀、元信筆魔王、八角形經筒、毘沙門天像三軀、金剛力士像二軀、古銅丸及角印、善尼子圖

○大徳寺

牧溪筆龍虎、同左右猿鶴中觀音、月壺筆觀音、吳道子及金剛筆楊柳觀音大小二幅、禪月筆五百羅漢百幅内六幅等伯補筆、蛇足筆山水、後醍醐帝宸筆朗詠集、元信筆蝦蟇鐵拐の衝立、足利義政所持の印篋、開山書翰二幅、李季子筆山水に一休和尚の讚詩、光信筆百鬼夜行繪卷物、徽宗帝筆達磨、其他名什數百點

○金閣寺

化不動尊立像、運慶作三尊佛、弘法大師作石造不動尊、義持贊足利義滿公法衣の像、義滿公の和歌、定朝作正觀音

○北野神社

覺圓親王附記藤原信實畫天神緣起八卷、春日光長筆延年舞の衝立、光起筆北野緣起二卷、靈元帝御寄附の硯箱、銀風爐釜一組、春日行秀筆三十六歌仙圖三卷内一枚元信補筆、

○等持院

定海作利運地藏尊、異形の觀喜天木像

○龍安寺

妙澤筆不動尊、兆殿司筆觀世音、宅間證賀筆八幡曼荼羅

○妙心寺

三幅對中達磨は門無關筆禮滅翁贊左布袋右豐干は李龍眠筆偃溪贊、小野仁海筆五髻の文珠、蘇東波筆人物山水二幅對、吳道子筆釋迦乳供の像、文徵明筆仙逸の圖、三幅對中達磨額輝筆明濁孤贊左朝陽石對月梁楷筆沖瀧繩贊、牧溪筆中觀音左右山水三幅對豐太閤寄附祐乘作俱利加羅不動、花園帝宸翰、繪旨箱、乘君の護身刀、青磁の燈臺、梵鐘、紫銅の塔、古鏡、福富草紙、喝石屐圖、如拙筆胡蘆捕鯰魚の圖、涅槃の銅像、後水尾帝御爪を植たる伽羅木、秦漢印統八冊、其他奇

代の名什頗る多し

○法金剛院

光格帝御扇子、仁清作蓮形大香爐、春日作阿彌陀如來

○御室仁和寺

金岡筆聖德太子の像、弘法大師筆五大明王三幅、興教大師筆俱利加羅不動明王、八幡真影の圖、張思恭筆孔雀明王、吳道子筆玉字文珠菩薩、弘法大師所持三鈷杵外數品、不空三藏筆十八梵字二卷、孝謙帝宸筆觀音授記經一卷、眞雅筆弘法大師の像

○梅尾山高山寺

信實筆華嚴さうし六卷、巨勢博高筆佛眼佛母像、經櫃四個、古本玉篇、運慶作鹿二頭馬一頭、明惠上人筆自大唐至竺里數書、文鏡上人の像、島津忠久自筆の像、鳥羽僧正筆將軍塚營造鳥獸遊戲圖

○高樺山神護寺

釋尊坐像、八祖の像、後白河法皇以下肖像五幅、傳教大師筆法華經八卷、弘法大師作五大虚空藏五躰、是善卿銘敏行書の鐘、後白河法皇勅納一切經律論四十五種、文覺上人所持木柄の五鈺鈴

○槇尾山西明寺

弘法大師作千手觀音、同筆唐高祖傳一卷、行基菩薩作藥師如來、

○清涼寺

天竺毘首羯摩作本尊釋迦如來、弘法大師作毘沙門天、烏佛師作阿彌陀觀音勢至三尊、元信筆釋迦緣起六卷、圓光大師筆迎接曼荼羅摸本、金剛筆扉畫十二天、釋迦誕生の圖、定朝作地藏尊

○大覺寺

弘法大師筆五大虚空藏、三御影、五筆水天、羅生門の礼、後宇多帝

御自筆の像及宸翰遺告、眞如親王筆弘法大師の像

○二尊院

聖德太子御自筆の像、張思恭筆釋迦三尊、繡畫十六羅漢、金剛筆十王の像十幅、圓光大師筆勢至菩薩、弘法大師筆地藏尊

○天龍寺

顏輝の龍舜舉の虎、馬達筆雲門大師清涼禪師像、吳道子筆觀世音、夢想國師自通の賛、八卦摸樣青磁香爐

○鹿王院

運慶作十大弟子像、顏輝筆三尊佛、兆殿司筆中尊及三十祖の像

○法輪寺

道昌作虚空藏菩薩、鍍金能俗性珠塔、運慶作金剛力士二躰

○太秦廣隆寺

聖德太子自作十六歳の像、弘法大師遺物三鈷鈴、隋煬帝貢獻阿彌陀如來、百濟王貢獻如意輪觀世音、毘首羯摩作毘沙門天、秦致真筆墨德太子繪傳四卷、乾漆製如意輪觀世音、板佛

○勝持寺

傳教大師作藥師如來

○西岩倉金藏寺

運慶作阿彌陀如來立像

○三鈷寺

西山上人筆當麻曼荼羅及涅槃像

○西山善峰寺

傳教大師作藥師如來、源算上人作石造釋迦如來、聖德太子自作愛馬の像、慈覺大師作彌陀佛、光信筆聖德太子繪傳六幅

○粟生光明寺

惠心僧都筆四十九躰化佛來迎の圖、金岡筆十一佛の像、運慶作面三個、銅造叩鉢二個、十六羅漢十六幅

○寶寺

二重の寶塔、橋掛の繪圖、灘鬼面二個

○安樂壽院

鳥羽法皇御念持佛阿彌陀如來、鳥羽僧正筆涙切不動尊、行基菩薩作藥師如來、興教大師作不動院の不動尊

○安祥寺

惠運僧都入唐將來地藏尊、弘法大師作多門天

○毘沙門堂

菅公作毘沙門天、仇英筆漢宮春曉の圖、土佐光芳源氏物語屏風

○勸修寺

延喜帝御遺物繡曼荼羅、光格帝御遺物文臺、弘法大師筆仁王經頁責
疏三冊、泰澄作十一面觀世音

○隨心院

弘法大師自筆の像、仁孝帝御遺物の衝立、古今序

○醍醐寺

弘法大師筆五大尊像五幅、智泉筆毘沙門天、乘馬の圖屏風、其他弘
法大師の筆蹟多し

○三寶院

醍醐帝御眞影、弘法大師筆愛染明王、安阿彌作彌勒菩薩、飛行の錫
鉢、軍陀利明王の像、玉幡二流修法箱、青貝硯箱

○黄檗山萬福寺

陳賢筆觀世音一幅列祖像一幅、國性爺鄭成の書、後水尾帝所賜錦織
觀世音像黃金舍利塔、探幽筆隱元贊三尊佛、陸包山筆松の圖、范道
生筆十八羅漢十八躰、古宜興鐘、土佐將監筆文殊菩薩

○三室戸寺

慈覺大師作彌陀如來坐像、隆明僧正筆觀音勢至釋迦毘沙門四尊

○平等院

鳳凰堂扉觀經九品の拔書俊成卿、同曼荼羅爲成卿筆、同四邊壁上五
十躰菩薩定朝作、銅造梵鐘

○蟹滿寺

傳教大師作聖觀音二躰、厨子入地藏尊一躰、銅造座像の釋迦如來

○北吉野神童寺

聖德太子作日光月光千手觀音、役行者自作の像、弘法大師作不動愛

染二尊、理源大師作前鬼後鬼、願安大師作彌陀如來、鳥佛師作毘沙門天及猿田彦の面、運慶作彌陀毘沙門二尊

○海修山寺

張思恭筆三尊佛、法華曼荼羅、十五の像十幅、舜舉筆十六羅漢、十六幅、解脫上人作十一面觀世音、惠心僧都作藥師如來

○金胎寺

役行者自作の像三躰及地藏毘沙門二尊、聖德太子作十一面觀世音智證大師作觀音不動二尊、同一刀三禮作藏王權現、毘首羯摩作彌勒不動毘沙門の三尊、明兆筆焰魔曼荼羅及十五曼荼羅

重要物産其他各種統計

廿六年京都府統計に據る

西陣織物

同製造額は二百四萬九千九百七十端、二萬五千八十二

枚、百二十九萬四千七百二十六本、一萬三千八百八十四疋、十一萬三千三百四尺にして其金額は千八十一萬五千六百廿二圓なり之を細則すれば左の如し

紋織 戸數千三百廿九、機數三千百九十四、職工男一萬五百十

七女千五百卅六、製造高卅萬七千八百卅本十一萬千五百四端三

萬八千九百八十八尺三千六百四十八枚、價格三百四十三萬七千

七百九十二圓

生紋羽二重織 戸數五百廿二、機數千八百八十一、職工男二千七

百廿六女千九百九十四、製造高廿四萬四千八百卅端五萬四千五

百六十四尺三千四百五十六枚、價額百一十一萬八千二百五十九圓

縹子織 戸數四百十八、機數千三百五十三、職工男二千八百十二

女千五百九十六、製造高五萬六千八百八十本十一萬八千四百端、

金額百廿萬七千二百九十六圓

縮緬織 戸數三百四十九、機數九百十五、職工男七百卅三女二千四百卅八、製造高二十萬二千五十八端一萬三千八百八十四疋 價額百廿一萬六千九百七十一圓

博多織 戸數二百五十、機數五百卅七、職工男千七百五十二女五百四、製造高廿四萬七千六百五十本七百廿端、價格九十七萬 五百七十八圓

天鵝絨織 戸數百三、機數二百八十七、職工男六百九十四女二百廿八、製造高四萬八千三百卅端二千九百五十二尺、價格卅九萬二千二百卅二

木綿織 戸數七百八十九、機數三千九百五十九、職工男千四百卅八女五千七百十六、製造高六十八萬三千六十四本百廿五萬四

千百卅二端一萬六千八百尺一萬七千九百七十八枚、價格二百四十七萬二千四百九十四圓

刺繡 同製造金額は廿七萬三千五百九十圓にして戸數四百七十、職工男八百九十七、女三百五十四なり

綵纈カケ 同製造價額は卅一萬三千三百圓、戸數五十五、職工女三千二百なり

染物 各種染物の染價總額は五十萬七千九百四十九圓にして之を細則すれば左の如し

幽禪染 戸數二百九十一、職工男二百七十九女九十七、價格十二萬千六百廿五圓

茶染 戸數百三十九、職工及徒弟百九十一女八十九、價額十萬六百七十二圓

藍染 戸數百五、職工及徒弟男二十一女十六、價額十一萬千三百圓

絲綢諸色染 戸數八十一、職工及徒弟男百三十二女二十七、價額四萬九千四百二十九圓

紅染 戸數八十八、職工及徒弟男六十八女三十七、價額三萬三千三百八十六圓

絲綢藍紺染 戸數十三、職工及徒弟男百七十女三十、價額三萬五千六百二圓

中形紺染 戸數四十四、職工及徒弟男百三十四女三十三、價額一萬三千九百五十六圓

受染 戸數三十八、職工及徒弟男一、價額一萬三千九百四十一圓

紺染 戸數百二十五、職工及徒弟男四十四、價額九千五百十一圓

紫染 戸數十九、職工及徒弟男四十、價額九千二百九十六圓

引染 戸數四十六、職工及徒弟男四十四、價額九千二百卅一圓
陶磁器 同製造總價額は三十萬二千百十七圓にして細別すれば左

の如し

粟田焼 戸數十一、窯數本焼十六素焼三十六錦附百五十五、職

工男三百七十二女三、畫工二百六十七、價額八萬八千五百廿圓

清水焼 戸數六十二、窯數本焼二十二素焼二十四錦附五十六、

職工男三百五十五女五十、畫工三十二、價額二十一萬三千五百九十七圓

銅器及金厨器 同製造價額十八萬二千三百四圓にして戸數百十二

職工五百十九なり

漆器 同製造價額十四萬三千百七十九圓にして戸數二百八十、職工六百八十五なり

團扇、扇子 同製造總價額十八萬六千三百八圓にして細別すれば左の如し

團扇 戸數四十、職工男九十女七十、價額六萬七千七百六十圓

扇子 戸數九十、職工男九百一女二百八十二、價額十一萬八千五百四十八圓

銅七寶燒 同製造價額一萬七千圓にして戸數二十、職工及徒弟百五十なり

翫弄品 同製造價額二萬三千九百四十四圓にして戸數八十、職工男二百女百五十なり

絲組物 同製造價額五十七萬七千六百十圓にして戸數百九十三、

職工八百八十七なり

金銀箔及金銀絲押箔 同製造價額二十九萬六千四百十圓にして細別すれば左の如し

金銀箔 戸數百六十五、職工七百廿五、價額十五萬三千四百圓

金銀絲押箔 戸數三十九、職工千五十九、價額十四萬二千七百四十圓

外國輸出品 同製品總價額三百十四萬八千六百五十九圓にして細別すれば左の如し

○生糸一萬四千七百七十六貫、價額五十六萬五千五百五十八圓○製茶五十七萬七千七百十六貫、價額九十萬二千六百八十圓○繡屏風地一萬七千四百八十五圓○同窓掛地七千二百一圓○同雜品七萬九千

五百九十一圓○幽禪染二萬三千七百六十六圓○ハンカチ一八萬、五千九百六十二圓○諸織物九十九萬九千二百四十六圓○銅器及金屬器八萬八千八百八十五圓○漆器五萬三千三十個、價額三萬九千二百九十四圓○團扇二百八十一萬本、價額五萬九千八百七十五圓○扇子三百十九萬六千八百本、價額九萬五千七百五圓○陶器花瓶二十二萬四千七百二十九個、價額十二萬九百五十六圓○同壺一萬九千八百八十八個、價額三千八百五十七圓○同香爐二萬六百八十三個、價額一萬四百四十六圓○同飲食器四十四萬八千二十四個、價額一萬九千七十九圓○同雜器十六萬八千八百七十六個、價額二萬四千三百六十三圓○甌弄品八十八萬五千百個、價額一萬四百十圓

商工業組合 總數は七十三にして其名稱及戸數を細別すれば左の如し

○西陣織物製造業、戸數三千八百十二○京都刺繡工業、戸數四百七十○京都陶磁器商工異組、戸數六十二○京都粟田燒陶器、戸數十一○京都漆器商工、戸數二百八十○京都絲組物商工、戸數百九十三○京都染業、戸數千三百九十三○檜皮屋根工、戸數百十○京都大工業組合、戸數千三百五十八○鹿子纈商、戸數五十四○京都佛畫工商組合、戸數二十八○京都金銀絲押箔商、戸數四十九○京都綿商組合、戸數百七十○京都麻苧布絲商組合、戸數七十三○油蠟燭商組合、戸數五百五十二○美術彫刻業組合、戸數六十二○張物艶打工、戸數七十六○京都纈絞業組合、戸數四十五○京都玩弄品商組合、戸數二百○婦人小間物商組合、戸數三百四十○山城藍商組合、戸數九十一○京都漆商、戸數十三○京都竹商組合、戸數五十一○京都材木商組合、戸數百七十九○京都薪炭商三郷組々合

戶數百八十五、○造醬油鹽商、戶數五十○京都藥物商、戶數百八十○他國醬油問屋、戶數二十八○京都鹽表商、戶數五○京都建具業、戶數八十○西陣織物仲買協盛組、戶數八十七○京都米穀仲買商組合、戶數百五○京都上京質商組合、戶數百六十九○下京質商、戶數二百四十八○京都雇人受宿業組合、戶數三十六○京都園藝業、戶數二百五十七○京都繪具染料商組合、戶數百十四○京都浸拔業組合、戶數三十五○上京鋼鐵利器商工、戶數二百十八○京都諸金物商、戶數三十八○京都鑄物工、戶數三十三○京染吳服商組合、戶數二百三十八○木綿商福榮會、戶數百七十九○吳服商榮組々合、戶數二十三○京都吳服十仲間、戶數八○京都吳服商組合、戶數四百二十三○京都染吳服朋商、戶數二百三十一○京都半襟商、戶數四十七○吳服商弘永組、戶數三十六○京京都銀箔商工、戶數六十九

○京都金箔商工、戶數四十六○京都扇子商、戶數二百五十二○京都團扇商、戶數四十二○地金鐵物卸商、戶數十七○京都前挽鋸商、戶數十二○京都菓子商、戶數六百四○京都酒造商、戶數百四十二○京都諸酒仲次商、戶數三十九○京都酒商、戶數六百四十六○京都煙草商、戶數四百三十五○京都鹽醬油商、戶數六百五十○京都味噌商、戶數六十六○京都銅器鑄物商工、戶數七十○京都鑄銅器商工、戶數二百三十○京都金屬工商、戶數五十四○濱縮緬商、戶數十五○京都貿易商、戶數三十三○京都書籍商組合、戶數七十八○新聞賣捌同盟、戶數三十八

●神社

官幣社十七、國幣社二、府社十、鄉社六十七、村社千三十二、境外無格社千八百五十九、境內無格社三千七百九十七、總數六千七百八

●寺院

天台百十、真言三百四十八、淨土九百四十五、臨濟五百五十七、曹洞四百九、黃檗三十八、真宗四百七十一、日蓮三百十九、時宗二十四、融通念佛五、法相十二

官衛學校公會堂其他

京都府名勝地内記

京都府廳
主殿寮出張所
地方裁判所
區裁判所
皇宮警察署
御苑内
下立賣新町西入
御苑内
九太町富小路西入
竹屋町富小路西入
御苑内

上長者町警察署

上長者町

中立賣警察署

中立賣烏丸西入

河原町警察署

川端夷川北入

松原警察署

松原通大和大路東入

五條警察署

五條大橋東詰

堀川警察署

堀川錦北入

上京區役所

中立賣西洞院角

下京區役所

五條通柳馬場

京都府監獄署

二條離宮の北西

京都郵便電信局

三條通東洞院角

同 今出川支局

今出川通大宮東入

同 五條支局

五條大橋西詰

官衛學校公會堂其他

京都商業會議所
 京都市議事堂
 京都水利事務所
 京都博覽會場
 京都測候所
 五二會本部
 第三高等學校
 尋常師範學校
 尋常中學校
 京都美術工藝學校
 京都染織學校
 京都府高等女學校

烏丸通夷川北入
 寺町通岬小路南入
 南禪寺町
 御苑内
 同
 京都商業會議所内
 吉田村
 寺町通廣小路路南入
 新町通下立賣南入
 丸太町通鉄屋町
 中町通丸太町南入

京都府商業學校
 京都府醫學學校
 市立盲啞院
 本願寺派大學林
 同 文學寮
 本谷派大學寮
 同 中學寮
 妙心寺普通學校
 淨土宗中學林
 直言宗大學林
 同志社大學
 同普通學校

堀川錦小路北入
 河原町通廣小路北入
 笠座丸太町北入
 臺所門七條北入
 松原通大宮西入
 高倉魚棚北入
 伏見街道一ノ橋上ル池田町
 葛野郡花園村
 知恩院山内
 教王護國寺内
 今出川烏丸
 同

京都名勝案内

同女學校	同
同看病婦學校	烏丸通上長者町南入
京華看病婦學校	歎屋町三條北入
佛語女學校	河原町三條北入
京都私立女學校	御幸町二條南入
獨逸學校	河原町押小路南入
京都藥學校	同所
日蓮宗大檀支林	五條通堀川西入本國寺境內
京都法學校	寺町通四條南入
佛光寺派勸學寮	東洞院佛光寺南入
平安女學院	烏丸通下立賣
益習館	丸太町通烏丸西入

官術學校公會其他

京都圖書館	間之町御池
同志社圖書館	今出川烏丸東入
府立療病院	河原町荒神口北入
東山醫院	祇園神幸道
同志社病院	烏丸通上長者町南入
京都癩狂院	因幡藥師境內
山田病院	
平安病院	船岡山
精神病院	千本頭
益井療眼院	
眼病院	
六條病院	

療蟲病院
日吉病院
聚樂病院
岩倉癲狂院

銀行及會社

日本銀行京都出張所
東洞院御池北入
第四十九國立銀行
三條通柳馬場西入
第三百三十國立銀行
柳馬場通三條北入
第十三國立銀行
四條通烏丸西入
第一百十一國立銀行
三條通東洞院西入
第一國立銀行京都支店
烏丸通姉小路北入

合名會社三井銀行支店
新町通六角南入
株式會社京都銀行
松原通烏丸東入
株式會社京都商工銀行
東洞院通六角南入
株式會社西陣銀行
元誓願寺大宮西入
株式會社京都貿易銀行
寺町通四條南入
株式會社京都貯蓄銀行
三條通東洞院西入
株式會社京都貯藏銀行
松原通烏丸東入
株式會社京都米穀取引所
錦小路東洞院東入
株式會社京都株式取引所
東洞院通錦小路角
第一絹糸紡績株式會社
東竹屋町第一番戶
京都織物株式會社
川端通御幸橋東詰
京都陶器株式會社
紀伊郡深草村
京都電燈株式會社
河原町蛸藥師南入

關西貿易株式會社
 三條通麩屋町東入
 京都時計製造株式會社
 富小路通二條北入
 京都紡績株式會社
 堀川通竹屋町北入
 京都倉庫株式會社
 東洞院通七條北入
 內國通運株式會社支店
 四條通室町東入
 京都電氣鐵道株式會社
 木屋町通四條南入
 疏水倉庫株式會社
 岡崎町
 日本撚糸株式會社
 小川通上立賣南入
 西陣撚糸再整株式會社
 堀川頭寺ノ内北入
 株式會社京都油取引所
 東洞院錦小路南入
 京都製膠株式會社
 上立賣通新町西入
 佛敎生命保險株式會社
 木屋町通三條南入
 京都生命保險株式會社
 堺町通夷川北入

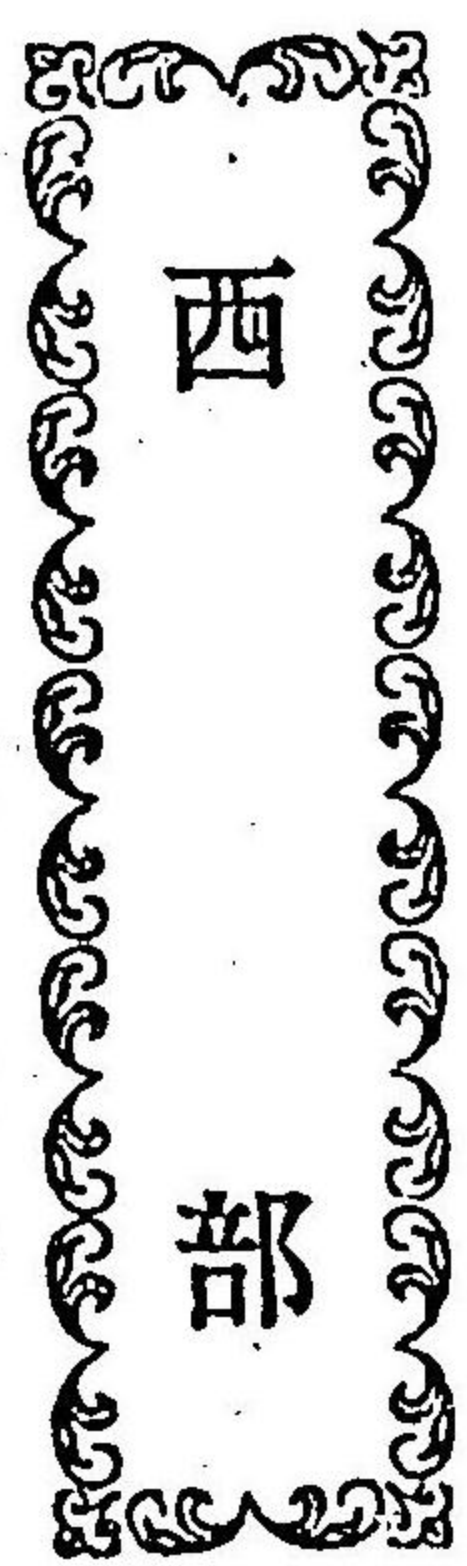
有隣生命保險株式會社
 東洞院通六角北入
 眞宗信徒生命保險株式會社
 五條大橋東三丁目
 眞宗生命保險株式會社支店
 寺町通佛光寺角
 明敎生命保險株式會社支店
 四條通柳馬場東入
 丸 阪 合 資 會 社
 吉 田 町
 京都製糸合資會社
 三條通東洞院東入
 合 資 商 報 會 社
 智惠光院寺の内下
 西陣紋織合資會社
 伏見街道一ノ橋東入
 京都製針合資會社
 衣棚通二條北入
 合資會社京羽商會
 二條新車屋町東入
 藤井紡績會社

文人墨客

小野湖山(詩)。江馬天江(書)。谷如意(書)。林双橋(詩)。市村水香(詩)。富岡鐵齋(書畫)。遠山廬山(書)。岸竹堂(岸派畫)。田能村直入(文人畫)。鈴木松年(鈴木派畫)。原在泉(圓山派畫)。菊地芳文(四條派畫)。今尾景年(鈴木派畫)。森川曾文(四條派畫)。望月玉泉(四條派畫)。前川文嶺(同上)。柳原文翠(土佐畫)。長谷川玉純(同上)。谷口藹山(文人)。内海吉堂(同上)。森春岳(岸派畫)。鈴木瑞彦(四條派畫)。竹川友廣(圓山派畫)。河邊華舉(圓山派畫)。久保田米僊(鈴木派畫)。森雄山(同上)。國井應陽(同上)。田中一華(鈴木派畫)。竹内樓鳳(四條派畫)。山本雪堂(同上)。中島有章(圓山派畫)。小林吳嶠(鈴木派畫)。谷口香嶠(四條派畫)。山田松溪(鈴木派畫)。三宅吳曉(四條派畫)。望月玉溪(同上)。田村宗立(洋畫)。冷泉爲紀(和歌)。近藤芳介(同上)。赤松祐以(同上)。宇田淵(同上)。猪熊夏樹(同上)。毘尼薩台巖(同上)。拜脚蓮因(同上)。細辻昌雄(同上)。

縣合府縣

京都を中心とし之を東西の二部に分てり即ち西部に屬するものは大阪、奈良、兵庫、岡山、廣島、香川の各府縣にして東部に屬するものは滋賀、岐阜、愛知、三重の諸縣とす



●大阪府

攝津、河内、和泉の三ヶ國を管せり府廳は大阪に在り四通八達運輸交通の便利なると全國第一たり東海道鐵道は京都より來り大阪を過ぎ神戸に至りて山陽鐵道に通じ其他大阪を中心として大阪鐵道は奈良縣下に通じ阪堺鐵道は堺市に至り又目下計畫中に係れる紀攝鐵道

あり城河鐵道あり海運には大阪、堺の二港あり河内を除くの外は地勢平坦にして土地最も豊穰なり物産は伊丹酒、池田炭、御影石、灘酒、寒天、河内木綿、金剛砂、綿、堺緞通、模稜織、鐵器等なり

大阪市 日本三都の一にして商業の盛大なること全國第一たり仁徳帝都を高津宮に奠め給ひ孝徳帝亦た長柄豊崎に都し給ひたるとありしが天正年中豊臣秀吉覇府を此地に開きてより漸次今日の隆盛を見るに至れり戸數十萬人口五十萬廣袤は東西一里十四町南北二里十二町あり之を東西南北の四區に分てり而して渠川縱横橋梁參差俗に入八百八橋と稱す出入の船舶は安治川、木津川の海口旁牛として百貨輻湊往來頻繁なり俗に之を出船千艘入船千艘の港といふ良に以あるなり又東海道鐵道あり京神に往來し又堺市に至るには阪堺鐵道あり大阪鐵道は和州王寺に至て分れて二道となり一は

奈良に達し一は櫻井に通ず其他川口よりは汽船の九州、四國、中國に往來航行するもの日々幾十艘なるを知らず實に我邦商業中心の府たるに耻ずといふ可きなり

高麗橋 東京の日本橋京都の三條大橋と同じく大阪の中心點として各地方里程の起算地とす梅田停車場より東南廿丁に在り

大阪城 一に金城と稱し日本名城の隨一なり天正十一年豊太閤之を城く周圍一里餘西門を大手門とし東に青屋口、西南に玉造口、北に京橋口の諸門を設け巍然たる一大城廓ありしが慶長十九年冬陣の和成りて徳川氏其外濠を埋め明和元年の夏陣に遂に落城し又戊辰の兵燹に罹りて今は僅に本丸を存するのみなれども城壁高ふして今尙數十間の巨石を石壘中に見るを得可し元和以後徳川氏城代を置きしが現今は第四師團本營たり壘高く壕深く人をして其壯大

に驚かしむ

三大橋 天満、天神、浪花の諸橋之を大阪の三大橋といふ何れも
鐵橋にして構造堅牢規模宏壯真に一大偉觀なり即ち天満橋は長百
十七間餘幅六間中央に備前島あり橋上最も眺望に富めり天神橋は
長百卅一間餘幅六間大阪第一の長橋なり橋北に天満青物市場あり
毎朝市を開き其繁盛は雜魚場の魚市と好一對の壯觀なり又浪花橋
は長百十四間餘幅四間中島を挟み堂島、土佐堀兩川の分岐する所
に在り橋上の往來織るが如く夏期は橋下より天神橋との間納涼の
舟相集まり絃歌の聲湧くが如し實に絶無の壯觀なり

網島 淀川猫間川の合流する中間に突出する堤の東方一帯の總稱
なり此邊豪商紳士の別業多し

櫻の宮 淀川の東岸に在りて造幣局と相對せり社を皇大神社とい

ひ天照太神を祭る堤上數丁の間櫻樹林を成せり櫻花の名所なり
造幣局 櫻の宮より源入渡を渡りたる對岸の處を造幣局とす建築
宏壯なり

天満の天満 天神の北五六丁に在り菅公の靈を祭る社殿壯麗にし
て境内廣大なり參詣群集晝夜絶へず大祭は毎年七月廿五日にて同
夜は神輿を舟に載て大川を下り松島の旅所に渡御す之を天神祭と
稱し大阪第一の盛觀なり

中島公園 中央に豊國神社あり豊臣秀吉の靈を祭る明治十三年の
創立なり社側に明治紀念碑あり明治十年西南戦士の靈を祭れり
大融寺 市の北郊を北野といふ古刹あり大融寺といふ眞言宗古義
派にして弘法大師の開基なり當時は桂木寺と號せしが承和年間左
大臣源朝臣兼光を大に佛殿を修補せしめ故て大融寺と號す

舊地は西北三丁餘の處なりしが近世快濟上人此地に再興せり本堂に千手觀音を安ず本堂の東に巡禮觀音あり三十三所の一なり本門の左に藤棚あり十數坪の廣きに亘り花季來觀するもの多し

北の新地 曾根崎新地といふ難波新地と南北相對し有名の遊廓也

堂島 有名なる米市場にして大阪米穀取引所あり本邦第一の相場

所なり其起源は天正年中淀屋辰五郎なる豪商諸國の米穀を買收し

店頭に市をなし諸人に賣買せしに濫觴せりといふ

津村御堂 本派本願寺別院なり俗に北の御堂といふ練堀を築き小

濠を繞らし宛然小城廓の觀あり寺門の前を御堂筋といひ佛具、玩

弄物等を販くの家多し

難波御堂 大谷派本願寺の別院なり俗に南の御堂といふ其規模の

大なると津村御堂に譲らず

座摩神社 神功皇后三韓より凱陣の後ち神璽を鎮めて齋ひ給ひし

所を浪速沼といふ應神帝其舊地を下して社殿を創建す天正年間今

の地に移せり神殿壯麗なり此邊寄席飲食店等多し

新町 著名の遊廓なり往時此邊は一面の海濱なりしを寛永年間田

圃を拓きて茲に遊女屋を集め新開の町なるを以て新町と稱せしと

ぞ

雜喉市場の魚市 京町堀川筋の市場にして三四丁の間其熱鬧名狀

す可らず魚市は市内數ヶ所にあれど此地を根本とす又對岸に鞆通

あり乾魚市あり共に繁盛を極む

阿彌陀ヶ池 北堀江四丁目に在り欽明帝の御宇百濟國より佛像を

献ず守屋大臣帝を諫めて之を難波堀江に投ぜしむ阿彌陀池は其舊

蹟なり

天保山 安治川の河口に在り公園地あり又海水浴あり旋店料理屋等ありて來遊するもの多し

心齋橋 長堀に架する半月形の鐵橋なり其南北一條の街衢を心齋

橋筋といふ殆ど一里市中最も殷賑を極むるの地にして日常の百貨一として辨ぜざるはなし

難波新地 南の新地といふ市中第一の遊廓なり

道頓堀 大阪市中最も熱鬧の地にして浪華座、中座、角座、朝日

座、辨天座等の劇場あり四時興行絶ゆるとなし

千日前 三四十十年前までは刑場のありし處にて墓石累累たりしが

今は見世物諸興行晝夜喧々として四時絶ゆるとなし東京の淺草京都の新京極と其趣を同ふせり

高津神社 仁德帝を祭る古は大阪城の邊に在りしを天正十一年此

地に遷座したるものにて即ら其都址なりと高臺の碑あり其左に舞臺あり之に登れば大阪全市は双眸の裏に集まる亦是れ無双の絶觀なり

生國魂神社 官幣大社にして生國魂、足國魂の二神を祭り大物主

命を合祀す創立の年月詳らかならず慶長年中豊太閤大に本社を修造せしむ境内櫻樹多く又蓮池あり眺望佳絶なり

桃山 生國魂の東五六丁此邊一面の桃園にして花候には群客紅雲の間に雜沓せり

四天王寺 天台宗、東成郡天王寺村に在り用明帝二年聖德太子

十六歳の時逆臣退治護國安民の素願を以て玉造の岸上に創建し給ひ其後推古帝元年に至り荒陵の東即ち今の地に移し給ふ佛刹の最

初勅願所の濫觴にして本邦無二の靈場なり當寺は往古宗派外に卓

立せしを淳和帝天長二年より天台宗となれり山號を荒陵山院號を敬田院とふ仁明帝承和四年始めて主務別當職を置られ諸親王若くは一宗の高僧を以て其職に任じ給ふ蓋し四天王寺は一山の總號にして往古より別に住職なかりしが明治八年より住職を置くことなれり寺域二萬五千六百餘坪東西南北の四大門あり南大門を正門とす通常參詣人は西大門より廻廊内に入り轉じて南大門の方に至り東大門を巡り北大門に達するを歴拜の順序とす西大門の前に石華表あり發心門と稱す鑄銅の扁額を掲ぐ釋迦如來轉法輪所當極樂土東門中心と書せり聖德太子の書なりともいひ又小野道風の筆なりともいふ發心門の内に納骨堂あり諸國の信徒來りて遺骨を納む又引聲堂(法華堂)、短聲堂(念佛堂)あり西大門には武庫山出現の彌陀の畫像あり聖德太子の筆なりと傳ふ門の兩側なる柱に輪寶

あり之を轉ずれば惑累を摧破すといふ門内に經藏、五智光院後白皇建立灌頂を勅め給ふ道場也あり廻廊は五重塔、金堂、講堂を圍繞して方形をなせり長百五十間四尺梁行二間一尺四寸西面中央に入口あり西重門といふ講堂は廻廊北方の中央に在り本尊は阿彌陀如來脇士は觀音、勢至の兩菩薩なり又四天王の像を安す兩脇に三千佛の小像を安置せり金堂は即ち本堂なり廻廊内の中央に在り本尊は如意輪觀世音東側に四天王の像あり各西方に向ふ西北隅に舍利塔あり婆羅門の彫像六形之を其頭上に載す塔内に南無佛の舍利釋迦のを安置す又堂内に五重の小塔あり三千の佛像を彫り内陣の四方は金色にして天井板に各種の草花を畫く外陣の四方に極彩色なる十二天の畫像あり堂内東側に淡路屋太郎兵衛の木像を安す(享和元年堂宇回廊の時獨力再建)二重屋根にして樓上欄干あり堂内の三方には樂器を刻み正面

に天人の像を刻む其外雲水形を彫り此堂の破風の内に鷹の宿木といふあり聖徳太子鷹を放ちて守屋の悪靈を逐はしめたる其鷹の宿木なりと五重塔は金堂の南に在りて其基礎は三間五尺四方、高二十四間三尺あり毎層雲水形を彫り垂木は象頭を刻り塔内釋迦像及四天王を安置す上層に登れば羽化して雲表に在るの思あり攝河泉淡は一瞰の下に在り快絶又壯絶仁王門は南方廻廊の中央に位す桁行十間餘横四間餘金剛夜叉の二像あり高各十五尺彫造頗る巧妙なり南大門は仁王門の南に在り門内に萬燈院あり千手觀音を安置す太子殿は境内の東南隅に在り聖靈院といふ寶殿は後花園帝の御宇勅して造營せしめ給ふ所にして即ち當院の奥御殿なり文久三年回祿に罹り明治十一年信徒の寄附金を以て再建せり太子殿の傍に點鐘樓あり俗に引導の鐘といふ唐門、虎の門、猫の門、用明天皇

殿、三昧院、經書堂其他一々枚舉に遑あらず寶器什寶の類は兵燹又は火災に罹りて焼失せしと雖も今尙存在するもの頗ふる多し就中聖徳太子楊枝の御影及聖徳太子の自筆御手印縁起後醍醐帝の御宸寫御手印縁起は世間絶無の靈寶なり

天王寺公園 四天王寺の境内は即ち天王寺公園なり土地高爽にして空氣新鮮老樹巨木鬱葱として春色駘蕩の候秋氣蕭瑟の節都下の士女來遊する者殊に多し住吉公園と共に府下の二大公園なり

茶臼山 天王寺の西南に在り緑樹鬱葱たる丘陵にて元和の役眞田幸村戦死の古戰場なり又山の東南に黄檗派の禪刹あり俗に之を雲水寺といふ庭園幽雅客の需に應じて普茶料理をなせり

阿部野神社 雲水寺の南安部野に在り南朝の忠臣北畠顯家を祭る

此地は顯家戦死の舊蹟なり

一心寺

圓光大師の開基にて大師二十五ヶ所舊蹟の一なり

住吉神社

官幣大社にして底筒男命、中筒男命、表筒男命を祀り

神功皇后攝政十一年の創建なり後ち神功皇后を合祀し併せて四座となす社殿四棟其構造頗る古雅にして莊重なり毎年七月三十日大萩の神事あり神輿は堺市に渡御す又六月初旬に御田祭を行ふ新町遊廊より水干緋の袴を着したる歌妓を出して其式を行はしむ境内廣大にして其内外古松多く遠く海邊に連なり風光明媚なり住吉公園地あり又本社西凡二十丁の處に常夜燈あり俗に住吉の高燈籠といふ毎年四月住吉の潮干狩とて男女來遊す

堺

昔は有名の互市場にして今尙舊態を存し戸數殆んど九千人口

四萬五千あり市内に名勝多し大濱公園地は茅渚の海を擁したる遙に淡路と相對し播磨の翠巒を右にし紀伊の煙峰を左にす風色絶勝

清涼翫す可し海水浴旅店あり殊に避暑に好し妙國寺の蘇鐵は高三間餘大枝二十三本四百年に垂たれども翠色變ずるとなし開口神社は社地廣ふして茶店軒を列ぬ賽人日夜絶ゆるとなく南宗寺は澤庵和尚の中興にて境内に牡丹花宵柏、一閑齋紹鷗、千利休等の墓あり其他探遊す可きもの多し

大島神社

堺より南一里官幣大社にして日本武尊を祭れり

四條畷神社

河内飯盛山の西麓に在り別格官幣社にして楠正行を祭

れり明治二十二年の創立なり土地高爽にして眺望快絶又四條畷の古戰場は其南十餘丁に在り

笑面山

楓葉の名所にして山城の三尾と名を争ふ大阪より凡六里

笑面山中に在り寺を瀧安寺と號す本尊辨財天は有名なる靈佛なり

笑面の瀧は寺より十七八丁の處に在り高十一丈幅三間餘瀧山楓樹

多し新緑、秋紅の二季佳趣いふ可らず四時雅俗の遊蹤を絶つとなし

●奈良縣

大和國を管せり縣廳は奈良に在り神武帝初めて橿原かしはらに奠鼎し崇神帝又笠縫に都し給ひてより列聖皇都を遷徙せらるゝと十數次、元明帝奈良に都せらるゝと八十餘年桓武帝の帝都を山城に遷さるゝも尙ほ奈良を稱して南都といへり國中既成の鐵道二線あり大阪鐵道は河内を経て王子に至り奈良に達し一は王子より分れて櫻井町に至るものはれなり其他關西鐵道は伊賀より來り奈良に達せんとし奈良鐵道は奈良を發して京都に達せんとするものあり物産は奈良晒ならし、吉野紙、吉野葛、奈良漬ならじ、大和飛白やまとひび、木材等なり

奈良町 大和第一の都會にして戸數五千人人口二萬五千奈良縣廳所

在の地なり和銅三年元明帝始めて都を此地に奠め給ひてより爾後桓武帝の遷都に至るまで七朝八十餘年の舊都にして名祠古刹多く山水の秀麗太古の眞美を知らんと欲するものは此地に來遊せざる可らず京都を距る十里廿七丁目々馬車の往復あり又京都に通ずる奈良鐵道は目下經營中に係れり

春日神社 官幣大社、春日山麓に在り神護景雲二年の創建にして境内三十萬餘坪正殿四宇あり第一は武甕槌命、第二は經津主命、第三は天兒屋根命、第四は姫大神を祭り古來四社大明神と號せり樓門桁行五間梁行二間半廻廊長百五間幅二間五尺瑞籬あり其他幾多の祠宇は境内に充滿せり此社古來燈籠の多きを以て名あり金屬製九百八十八基、石造千七百八十九基あり就中其著名なるものは寒蟬ひんし、萩戸はらいど、雲朴うんぼく、臥鹿の諸燈籠にして曾世の摸形とする所なり又神鹿と稱して社の内

外に群鹿徘徊す毎年三月九日十日神鹿角切の祭あり大祭は三月十五日十二月十七日の兩度にて勅使參向儀式頗る嚴肅なり

春日山 古來著名の勝地にして三峯あり本宮ほんぐうヶ嶽、水屋みづの峰、高峰といひ奈良の一偉觀なり仁明帝承和八年の頃より殺生伐木禁制の地なり

三笠山 春日山に連なり瀟山翠巖を展ぶるが如く山巔の眺望極めて佳絶士女の行厨を携へて之に登臨するもの多し

手向山神社 天平勝寶二年の創建にて應神帝、姫神、仲哀帝、神功皇后を祭れり社畔に老楓多し

三月堂 法華堂をいふ天平勝寶五年良辨僧正の開基にて本尊不空ぼんそく羅索觀音は良辨の作、東方の不動尊西方の地藏菩薩は共に光明皇后の作にして大黒天は弘法大師の作なり

二月堂 天平勝寶四年良辨僧正の徒弟實忠和尚の造營する所にして堂は山腹に架して設けらる本尊十一面觀音は在昔攝津難波浦より獲たるものにて俗に肉身ねんしんの像といふ毎年舊曆二月一日より十四日まで堂下の若狹井わかつまを汲み法會を修す世に之を二月堂の水取と名け參詣の男女四方より群集し大阪鐵道は爲めに往復切手を發するに至る山中の眺望最も佳絶なり

三昧堂 俗に四月堂といふ本尊は普賢菩薩なり

東大寺 南都七大寺の一にして聖武帝の勅願により神龜五年良辨僧正の開基なり八宗兼學にて就中三論華嚴を本旨とせり當寺の本尊は盧舍那佛にして世に有名なる奈良の大佛是れなり座像五丈三尺五寸天平勝寶十五年行基菩薩勅を奉じて天下に勸進し鑄造に着手してより改造八回同十八年始めて竣功す之が原料は熟銅七千三

萬九千五百六十斤、白錫一萬二千六百三十八斤、練金一萬四百三十六兩、銅五萬八千六百二十兩を要したりと治承年中平重衡の爲め燒毀せられて殿舎兵燹に罹り頭部鎔解したるを源賴朝之を再興す永祿十年松永久秀の兵火に罹り頭首烏有に歸せしが幾星霜の後ち山田道安なる人自から淨財を寄捨して之を修補す今の佛像是れなり爾後百三十餘年佛ありて殿なく雨露に曝されしが元祿年間公慶上人住持の時勅を奉じて貴賤の淨捨を求め以て佛殿を建立せり殿舎は高十五丈六尺にして東西二十九丈南北十七丈なり以て其偉大を知るに足れり殿舎の前に八角形の金燈籠あり宋の陳和卿の鑄造に係り佛像及獸形を刻せり

正倉院 せいそういん

勅封の寶庫は東大寺舊境内に在り今は宮内省の管理に屬す古器珍寶を藏すること夥たし

興福寺

南都七大寺の一にして始め山城國宇治郡山階里に在りて山階寺と稱せしが白鳳五年大和國高市郡鹿阪に移して鹿阪寺と號し和銅三年今の地に移し藤原不比等堂宇を造營して之を興福寺と改む在昔規模宏大なりしが今は櫻門金堂の礎と五層塔、南圓堂其他二三を存するのみ

猿澤池

興福寺前の碧池は世に有名なる猿澤池にして天竺の彌猴池に摸し之を造りたるものなりと池は半月形にして周廻百八十六間池邊より南圓堂五層塔を望み池畔に旅店、料理屋等多し、近年又櫻樹を植る四季の眺矚に富む雅俗來遊するもの多し

般若寺

元弘の亂天塔宮護良親王が難を大般若經の唐櫃に避け玉ひたるは即ち此寺にして唐櫃は今尙ほ珍藏せり庭上十三層の石塔 高五丈 及廿五菩薩の石像あり聖武帝の建立にして地底に寫筆の紺紙

金泥大般若經を納め其上に建てたるものにて寺號も之に因由して名けたるものなりと寺内に古代の石燈籠あり形狀奇雅にして世に般若形と稱するは之を摸擬せしものなりと

月瀬

梅林の名所にして天下の絶勝なり大和、伊賀の二國に跨れ

り其地勢は一帯の名張川東南より西北に向て流る延長二里餘南方は廣瀬、運瀬、嵩、月瀬等相連り北方は治田、白檜、石打、尾山長引等相次ぎ山谷の間梅樹幾百萬株、又右の外山城の高尾、太山、大和の片平、吉田、中峯山等も亦梅樹を植ゆ而して就中其奇勝に富むものを尾山、長引、月瀬、桃香野等とし即ち名張川に臨むの地にして瀨望一白清香馥郁たり近年雅俗の探遊するもの年々多きを加ふるに至り旅舎酒肆を設け遠來の客をして漸く不便を感せしめざるに至れり此地に遊ぶもの奈良よりすれば凡六里、伊賀より

すれば柘植より入り上野に出で二里餘にして之に達す柘植より上野まで三里餘

松尾寺

郡山停車場より三十丁養老二年僧永葉の創建なり本尊觀

音は俗に厄除觀音と稱し賽人多し毎年初午及庚辰月の甲子は殊に賑へり

金剛山寺

俗に矢田寺といふ天武帝の勅に依り知道僧正の開基な

り本尊は地藏菩薩にして世人の信仰頗る厚し舊四月一日供養あり藥師寺 南都七大寺の一にして本尊藥師如來は本邦第一の妙作な

り當寺は天武帝御宇白鳳九年の草創にて其後高市郡岡本に移せしが元正帝の御宇養老二年復此地に轉じたり金堂、東院、大層塔天平

年間等あり又佛足石あり百濟國獻納の釋迦佛の足形を彫れり

唐招提寺

南都七大寺の一にして天平勝寶八年唐僧鑑真大僧正の

開基以來未だ火災に罹らざる有名の大古刹なり藥師寺を距ると三

丁初め律寺といひ聖武帝の勅願所なり本尊は盧遮那佛紺漆の像にして樓門の額は孝謙帝の宸筆なり金堂、講堂、食堂、經藏、五層塔、繚索堂、御影堂、阿彌陀堂等あり又孤山の松、醍醐味の泉等あり

西大寺 南都七大寺の一にして天平神護元年孝謙帝の勅を以て釋常騰の開基なり本尊は丈六の觀音立像にして鳥羽帝の勅願に基き竣工の後ち京都に在りしを興正菩薩勅を受けて當寺に移せり又四天王は當寺建初に鑄造せし靈佛なり

石上神社 官幣大社、山邊郡山邊村に在り神体は十握の劍なり此劍は素戔鳴尊出雲に於て八岐の大蛇を斬り給ひたる御劍にて崇神帝御宇の創建なり

大和神社 官幣大社、同郡和村に在り祭神は倭大國魂神、八千

戈神及御年神にして垂仁帝二十五年の創建なり

法隆寺 南都七大福寺の一にして推古帝十五年聖德太子の建立なり舊名を班鳩寺といふ當寺は建立以來毫も其舊形を變せず千三百年前の堂塔古器物今尙悉く存在し本邦未曾有の古刹なり金堂、講堂、五重塔、西圓堂、大經藏、三經院、聖靈院、東院、夢殿等あり就中東院は太子の造營せられたる班鳩宮にして珍寶奇物當時の儘に保存せらる妄に衆庶の拜觀を許さず毎年舊曆二月二十二日より同廿四日まで大會式を執行し毎日正午天竺渡來の佛舍利開扉あり

龍田川 文武帝の詠ありてより有名の地なり其地は今の龍國神社の在します立野の地なりといひ又龍田町の西端生駒川に架する龍田橋の邊なりといひ又今の龍田川は即ち昔の龍田川にして異説容

る可らずといふものあり未だ孰れか是なるを知らず

龍田神社 官幣大社、天御柱、國御柱の二神を祭る崇神帝御宇の

創建なり

信貴山毘沙門天 信貴山上に在り寺を觀喜院と號す龍田と立野の

中間より登る可し聖德太子の草創なり毘沙門天王を安す

廣瀨神社 官幣大社、廣瀨郡河合村に在り祭神は若宇加能賣命に

して天武帝の御宇白鳳四年の創建なり

三輪神社 官幣大社、三輪山麓に在り大物主神を祭る崇神帝八年

の創建なり社傍に老杉あり験の杉といふ

長谷寺 眞言宗、初瀬町の北端泊瀬山に在り有名なる巨剎にして

本尊は十一面觀音なり天武帝の御宇初めて堂宇を造營す當寺は創

建以來火災に罹ると十數次、今の堂塔伽藍も明治年間の新築なれ

ども結構の宏麗なること決して舊觀を減ずるとなし境内三萬餘坪
山に據り廻廊を通じ本堂は其上端に在りて懸崖の上に架す其他佛
堂、僧坊、學寮等頗る多し當山は古來櫻花を以て名あり又近年杜
丹を以て聞ゆ遠近より遊賞するもの多し

談山神社 別格官幣社、多武峰の半腹に在り祭神は大織冠鎌足の

靈なり社殿の宏壯境内の幽邃なること東に日光あり西に談山あり

と稱するに至れり櫻井町より凡二十丁にして鳥居跡に至る夫れよ

り凡五十丁にして神廟に達す可し境内一萬五千餘坪正殿、拜殿、

樓門其他の殿堂鱗次して莊觀いふ可らず滿山櫻楓多く春秋の二季

來遊するもの最も多し此地より吉野に達する捷徑あり凡四里にし

て山路險惡なり

橿原神宮 畝傍山下に在り此地は往古の橿原宮址にして神武天皇

及媛ひめ御み輔すけ五十鈴姫皇后を祀る本社は明治廿三年の創建にして官幣大社たり境内一萬八千坪森嚴清穆なり當國に來遊するもの必らず此地に參拜して祖宗在天の靈を追仰し奉る可し

吉野山 櫻花第一の勝地を以て海の内外に高く又南朝三世五十餘年間の著名なる舊蹟なり吉野山とは金峰山より吉野河岸に至るの總稱にして大阪鐵道の櫻井停車場より車行す可し之に登らんとするに二道あり一は六田よりするもの一は上市よりするもの是れなり左れど通例六田より登り上市を歸路とするを順序とす
六田よりするものは一の阪に至れば既に櫻樹あり夫れより二十餘丁の間之を長峰の櫻といふ又三十丁目に至りて千本の茶屋あり此邊を一目千本といふ

上市よりするものは櫻の津を渡り七曲阪に至れば櫻樹最も多し之

を日本が花と名く日本無双の意なりとぞ

三十二町目にして兩路合して一となり三十三町目の橋を過ぎて吉野町の總門に達す吉野町を過ぎ町端に至れば天皇橋あり此間櫻樹多し仰いで山腹を望めば滿目皆櫻花之を奥の千本といふ其他名勝舊蹟の記載す可きもの多々なれども一々枚擧す可らざるを以て左に其二三を記せり

金峰山寺 吉野町の中央に在り一名を藏王堂といふ開基は役小角なり藏王權現を安ず堂前に四本の櫻あり元弘三年護良親王が舞樂を奏し給ひしは此處なりといふ

吉水神社 後醍醐天皇を祭れり維新以前までは吉水院と稱し金峰山寺の子院たりしが明治七年始めて神社とせり此處は後醍醐帝の始めて京都より潛幸ありし所にて後ち實城寺に遷らせ給ふたるな

り

如意輪寺

本尊如意輪観音は後醍醐帝の御作なり其厨子の扉は巨

勢金岡の畫にして帝の御讚あり而して帝の陵は寺の上方に在り又

楠正行が箭筈を以て辭世の一首を鐫りたる有名なる堂扉は今尙寶

庫に藏せりとぞ

竹林院

山中絶景第一の地なり什寶に源頼朝が山僧に與へたる義

經道討の令書あり

大峰山

吉野奥の院より凡六里、直立六千二百餘尺絶頂に藏王堂

あり藏王權現を安す役小角の作なりと毎年夏季諸國の信徒之に群

賽す

●兵庫縣

攝津の一部、播磨、淡路、但馬、丹波の一部を管せり縣廳は神戸に

在り東海道鐵道は大阪より神戸に來り山陽鐵道と連絡し山陽鐵道又

神戸を基點として播州を縦貫し岡山に入り廣島に達す况や海岸には

有名なる神戸港を初めとし明石、飾磨津、室津、坂越の諸港あり水

陸交通自在なり地味膏腴にして五穀穰々物産は赤穂鹽、龍野醬油、

姫路革、明石縮、高砂染等なり

神戸市 横濱と東西相頡頏して有名の互市場たり南は神戸港を擁

し北は丘陵を負ひ湊川其中央を貫流す慶應三年開て互市場となす

爾來日に月に繁華を加へ戸數四萬餘人口十二萬を超ゆるに至れり

其繁華の狀は到底紙筆の能く盡す可き所にあらざるを以て之を漫

遊者の實見に任せて贅せず

生田の森 源平の古戰場にして篠の梅、梶原の井、敦盛菘等あり

生田神社は稚日女尊を祭る社殿古雅なり

布引の瀧

武庫山腹に在り生田川の水源にして溪流茲に來り懸りて上下二層の瀧となる一を雄瀧といふ十五丈八尺一を雌瀧といふ七丈三尺瀧各二間なり其狀恰も白布の懸れるが如し其觀極めて壯なり茶亭料理店又は温泉等あり四時遊覽の客絶ゆことなし

諏訪山

山手通の北に聳ゆる丘陵をいふ旅館料理店等多く又温泉あり眺望頗る快絶なり市中の風色是を以て其の第一とす

湊川神社

別格官幣社にして楠正成の靈を祭れり明治四年社殿を造營す參詣の人晝夜絶ゆるとなし正門を入りたる右側の松林中に一碑あり嗚呼忠臣楠子之墓の八字を彫む是ぞ水戸光圀の建設する所にして裏面には明人朱舜水の撰文を刻せり境内方二丁餘劇場寄席其他商賈喧咽し市内第一繁華の地なり

廣嚴寺

湊川神社の西門より四丁俗に楠寺といふ建武三年楠氏の

一族七十三人此寺にて自盡す爾來正成の菩提所となれり今尙ほ楠氏の遺物あり

福原

治承年中福原の都址は今遊廓となれり東京芳原に擬し歌吹湧くが如く不夜城の觀あり

和田の岬

兵庫の西南に斗出し海を隔て、紀泉の遠山と相對し岬頭に燈臺あり又一大遊園あり和樂園といふ四時遊客を絶たず

有馬温泉

神戸より五里廿七丁神崎驛より六里西宮驛より六甲山道を行けば大約三里餘なり古來有名の温泉にして由來最も遠く神代より涌出する所なるが聖武帝の御宇行基僧正之を興復せり後又荒廢に屬すると九十五年建久元年仁西上人再興し豊太閤又之を修補し其後數回の改築を経て明治廿四年に至り大成せり構造は日本風宮殿にて浴室を別湯、並湯の二種に區別せり泉質は多量の鹽化

那篤留謨、鹽化加留謨、鹽化叟謨を含み之を嘗れば鹹味あり効能は主として防腐、解凝、強壯、催下、制酸等の力を有し悪性潰瘍、腺の硬結腫及他の頑腫物、慢性頑固皮膚病、水腫病、打撲、中風、慢性僂麻質私、關節病、神経性頭痛、腰痛、水脈管弛緩し官能衰萎する者、神経弛緩或は刺衝太過に因て發する慢性神経病、子宮病、神経の官能掌調を失ふに因り筋の運動支障より發する諸病、顛振、播掣、麻痺、意識病、神思鬱憂、癲癇、消化不良、食慾衰耗、貧血症、經閉、月經痛、舞蹈病等に宜しく便秘には瀉腸藥、小兒驚口瘡、咽喉腐爛には含嗽劑として用ふ可く食機衰耗（酸敗症）慢性肺管氣管支炎、膀胱病の小便酸性を帶ふるものは赤濁を減し其清澄なるを内服すべし其他冷浴湯は炭酸水を導き入浴に供し胃の機能を強くし風邪を驅り便通を調へ血液を補ひ腐敗を制す

るの効あり炭酸湯は其効能冷浴湯に同じ唯之れを沸したるのみ新湯湯花のは瘡藥となし妬湯つたは金瘡を治するの効あり眼洗湯いらいは眼病に効あり又鳥地獄といふ古井あり虫地獄といふ窪地あり鳥虫之に近ければ酸氣の爲め死すといふ市街を湯山町といふ戸數四百餘旅店二十有餘此地藝齋たる山獄の間に位し大氣清淨最も夏季の避暑に適せり

摩耶山 攝津の西に在り播磨の國境に跨れり麓より十八丁石階七段百九十八級山上に天上寺あり眞言宗にして大化元年法道上人の開基なり近年内外避暑の客多し

須磨浦 古來有名の勝地にして水清く氣爽かなり近傍に名所舊蹟多し祥福寺は俗に之を須磨寺と稱し什寶には青葉笛高麗笛敦盛の書名鼓臺谷の母衣細名鼓敦盛の手跡辨慶の刺札等あり源平の古

巖壙なる一の谷あり又鐘樓々峙あり三の谷の西新邊石手に院殿の塚あり

舞子濱 平砂一帯古松數千翠色白砂と相映し松聲濤韻と相和す淡路島は明石海峡を隔て、烟波渺茫の間にあり真に無双の絶景なり海岸に沿ふて林間に數戸の旅店あり内外紳士の來遊多し

明石 須磨、舞子と共に古來勝地を以て聞ゆ人丸神社あり歌聖柿本人丸を祭れり又大藏谷に平忠度の墓あり

尾上の松 加古川驛より南一里餘尾上神社内に在り方四丁に廣がり翠色滴たるが如し又社内に古鐘あり在昔神宮皇后の三韓より持歸り給ひたるものなりと傳ふ古色掬す可し

高砂の松 尾上の東高砂神社境内に在り古來の名樹なり

菅根の松 高砂の西北一里餘尾上高砂の松と共に有名なり菅公手

裁の松なりと傳ふ

姫路城 日本名城の一に算へらる一名之を白鷺城といふ天正年中之を改築してより規模初めて壯大なり今は歩兵第八旅團の營所なり

書寫山 姫路より西北凡一里許頂上に伽藍ありて圓教寺といひ西國廿七番の札所なり上古花山帝性空上人の徳を感じ行幸ありし所にて山中名所甚だ多し

城崎温泉 但馬國城崎郡湯島に在り市街の巖罅六所より涌出す鹽

類泉にして無色透明無臭稍鹹味あり養老四年僧道智の發見せしものにして之を飲めば胃弱白帶下を治し之に浴すれば多血貧血の諸症を醫す此地三面は山谿を繞らし東の一方城崎川を帯びて山水の

觀に富めり

岡山縣

備前、備中、美作の三ヶ國を管せり縣廳は岡山にあり山陽鐵道は播州より來りて廣島に通じ海岸には三番港、牛窓、玉島、笠岡の諸港あり又山陰道の雲伯地方より上國に赴かんとするもの路を本縣に取らざるなし物産は備前に伊部陶器、長船刀劔、備前焼あり備中に蘭蓆、茶、ツク羽根、柿餅子等あり

岡山市 山陽道の都會にして東西二十町餘南北一里有餘戸數一萬人口五萬あり旭川を夾みて瓦屋櫛比し街衢清潔なり其地勢は東一帶の峰巒あり風景京都の東山に髣髴たり而して西は平郊開豁なり山陽鐵道の岡山停車場は市の西端に在り市を去る二里三番港あり海路より來るものは此港に上陸して岡山に車行す可し

後樂園 旭川を隔て、岡山城の東北に在り日本三公園の一にして

貞享年中舊藩主池田左少將の創置する所なり面積三萬二千餘坪繞すに塙を以てし竹を植ゑ塙墻に代ふ四方に門を設く園中池沼を鑿つと四ヶ所旭川より引く所の水園中の溝渠に注ぎ迂回縈曲溪澗となり池沼となり遂に又旭川に落つ原流一脈の水千態萬狀變化の妙を極め各所に石橋或は圮橋ありて幽徑を通じ徑も亦縱横宛轉太だ酌致あり明治十九年車駕西巡の際 玉座を園の延養亭に設け園中の光景特に 愼念に副ひたるより園の名四方に喧傳し岡山に來遊するもの雅俗を論ぜず必らず之を訪はざるなし

蓮昌寺 岡山市東田町に在り日蓮宗の巨刹にして日像上人の開基なり什寶に上人筆蹟の大曼陀羅あり幅員數十丈春夏之交之を掲げて法會を修す信徒の參詣夥たし

宗忠神社 岡山停車場より十二三丁御野郡中野村に在り神道黒住

涙の教祖黒住左京宗忠を祭れり毎年六月及び十一月の二回大祭を行ふ諸國の信徒群參す

吉備津神社 岡山を去る二里餘備中賀陽部に在り國幣中社にして祭神は吉備津彦命なり本殿の構造古式に則り百八十間の廻廊あり壯觀無比なり什寶に日蓮上人自筆の紺紙金泥法華經八卷豊臣秀吉其他古英雄の書翰數十通あり又竈殿の鳴動とて吉凶禍福を占ふ事奇異にして有名なり

金乃神社 祭神は素盞鳴命にて備中國淺口郡大谷村に在り金神即ち金光教會本部なり京阪地方に信徒多く縁日には信徒群參し大祭の如きは諸州より參詣するもの夥たしく瀛車は割引をなし瀛船は別仕立を發するに至れり

西大寺 沿海の一名刹にして寶龜年中僧安隆の創立なり元と犀麩

寺といふ足利尊氏九州より再舉上洛の時軍檄逼急字劃の複雑なるより西大寺と改む毎年陰曆正月十四日夜會陽と唱へ參詣人に牛王を授與す數萬の參詣人裸身單褲寺内に嗔咽し争ふて之を捨ふ世に西大寺の會陽とて有名なり

● 廣 島 縣

安藝備後二ヶ國を管せり縣廳は廣島市に在り東は岡山縣西は山口縣北は島根縣に接し南方一帯は内海を隔て、遙かに愛媛縣と相對せり山陽鐵道は岡山縣より來りて廣島市に達し又海岸には鞆津、尾道、御手洗、三原、吳、宇品等の諸港ありて各地の交通最も便なり且雲石地方より上國に赴くもの多くは本縣を通過す物産は備後に備後壘表、鞆保命酒、藍、安藝には牡蠣、傘、算盤、鐵、蠟石、西條柿等

新津 福山驛より南三里古來有名の良港なり福禪寺(對瀨橋)は風
 光明燦實に日東第一形勝の名あるに負かす仙醉島、辨天島等對潮
 樓と相待つて絶景いふ可らず又當地より西一里に阿伏兔觀音あり
 尾道 有名の良港にして商業繁昌なり千光寺は山腹に在り開基詳
 かならざれど多田滿仲之を再建せり本尊には聖德太子作の千手觀
 音を安置す山上に千疊敷あり西國寺は行基僧正の開基にて天曆年
 中回祿に罹りしが延久年間之を再建せり什寶の菅公筆の金光明最
 勝王經十卷は希世の絶品なりと傳ふ淨上寺は聖德太子の建立なり
 正中年中焼失せしを嘉曆貞和の頃再興せり什寶多し右の三寺は尾
 道の三大寺と稱し古來景勝を以て有名なり

瀬戸内海の絶景 尾道より廣島に至る海上二十餘里は瀬戸内多
 島海中最も絶景と稱せらる此間を舟行して波光島影を賞観する興

味最も妙なりとす

廣島市 中國第一の都會にして其繁華大阪に亞ぐを以て小浪華の
 稱あり戸數二萬餘人口殆ど十萬廣島縣廳所在の地なり第五師團、
 廣島控訴院其他諸官衙學校病院諸會社銀行等あり廣島城は毛利氏
 中國十三州を領するに當り城く所にして其規模壯大維新前まで淺
 野氏四十三萬の居城たり今は第五師團本營なり征清大詔の煥發せら
 るゝや長くも大本營を此城に進めさせられ宵夜肝食親しく軍國の
 大機を親裁あらせらるゝは國民の永く記憶して感泣し奉る所にし
 て當城の光輝又幾何ぞや二葉山公園、饒津神社等の勝景あり又淺
 野侯の泉邸は名園にして岡山の後樂園と並稱せらる又た眞宗の大
 伽藍あり佛護寺といふ本願寺派に屬す又當地より南一里宇品港あ
 り屈指の良港たり

吳軍港 廣島より南十里第二海軍鎮守府所在の地にして海軍兵學校、造船所等あり國家の要鎮たり

嚴島 日本三景の一にして天下の絶勝なり廣島を去る五里周廻七里七浦あり山嶺巍々として松杉色深く市街は嚴島神社に傍ふて家を成せり紅葉もみぢあり谿流潺湲として紅楓に映するの處其風致いふ可らず島峯を彌山みせんといふ麓より登ると十八丁弘法大師の舊蹟なり又七浦の勝あり毎浦に蛭子神を祭る斷崖奇岸之を周遊するを島巡りといふ島内に一番の鳥及群鹿あり共に神使と稱し害を加ふるものなきを以て到る處に徘徊逍遙せり櫻樹あり艶陽の頃は白雲長く連りて山腰に蹙躡す又嚴島神社は國幣中社にして市杵島姫命田心姫命湍津姫命を祭れり推古帝の御宇創建なり社殿は平相國清盛の造營にて左右には百八の廻廊延長殆ど五十間崖に倚り水に架し潮

満る時は殿廊水上に浮ぶの觀あり又た古來有名の畫伯は必らず其畫を當社に奉納したるを以て廊上には古法眼を始め名家の額を掲ること無數なり宛然一の繪畫共進會を見るが如し海中に石の大鳥居あり高七間餘其他什寶を藏すること夥たし大經堂は俗に千疊敷といふ豊太閤の建立にして古傳によれば一本の楠樹を以て建築したるなりと日本建築中屈指の建物なり

●香川縣

讃岐國を管せり縣廳は高松に在り海岸には高松、丸龜、多度津の諸港あり日夕阪神及び中國九州の各地に往復す可し又讃岐鐵道あり琴平に起り善通寺、多度津を経て丸龜に達せり物産は砂糖、食鹽、保多織等なり

高松市 當國第一の都會にして香川縣廳所在の地なり人口三萬四

千餘あり松平氏の舊城下たり當地の東南一里餘屋島の古戰場、五

劍山、志度寺等の名勝舊蹟あり

白峰

一に綾の松山といふ山上に崇徳帝の陵あり土人之を御智の

御所と稱し廟舎壯麗なり丸龜より東五里

丸龜

高松に亞くの一都會にして人口一萬八千餘、第五師團丸龜

衛戍あり

多度津

當國第一の良港にして人口一萬餘金刀比羅參詣の要路に

して讚岐鐵道あり又海上には日夕阪神及中國九州の各地に往復するの漁船あり市街頗る繁盛なり

金刀比羅神社

象頭山腹に在り正殿には大物主命、相殿には崇徳

帝を奉祀せり正殿の大神は明曆の縁起に已向三千年云々と記せり其古社たるを知る可し相殿の神靈は二條帝の御宇永萬元年七月の

勸請なり神威赫灼靈驗炳著なるを以て諸國參詣の夥たしきこと本邦無双と稱せり今の社殿は明治十一年の新築に係り白木の檜造にて宏麗なり境内攝末社多し山中十二景の勝あり風色愛すべし
琴平町 象頭山麓の市街にして戸數千餘、丸龜多度津を去る各三里金刀比羅參詣の旅客常に絶えず頗る繁昌せり

東

部

滋賀縣

近江國を管せり縣廳は天津に在り當國は東北三道の要地にして運輸至便交通自在なるは全國稀に見る所なり東海道鐵道、敦賀鐵道、關西鐵道の諸線は全國を縱横し近江鐵道亦計畫中に係れり民業は農事を第一とし土地膏腴にして江州米の名夙に全國に高し愛知神崎の二